

惰徒食を防ぐが爲めなりと云ふ又新聞賣小僧集會所と稱するものあり此處には貧乏人の子供を集め府中にて發兌する諸新聞紙を携へ或は鐵道馬車に入り或は市街を呼び歩き成る可く多く賣捌かしめ多少の収益あるときは幾分かの飲食費を引去りて残り積立金と爲し追て之れを附與するの仕組にして是れ亦一法ありと云ふ可し凡そ是等の救貧組織は其數枚舉に違わらざれども之を要するに富豪家が獨り其富豪を専らにして貧者の不平憤懣と激せしめざるやう夫々その心を致すものにして英國の如き國柄にては之れが爲め社會黨などの勢を鎮撫するの功あるが如し斯くて小兒より十五六歳に達するまで貧者の兒童を救濟するの途は固より多端なるが故に庶子などの數は澤山あれども我日本に行はるゝ貧者の樂兒は極めて少なし勿論樂兒と云へることは其例なきに非ざれども是れは貧者に少くして相當

の身分ある人に却つて多きものゝ如し居士のリヴァプール府に滞在する中一箇の新聞に接したることあり或る時倫敦西北停車場に届先不分明の荷物一個到來したることあり此荷物は大丈夫ある四角の箱にして處々に小さき穴を明け壞れ物大切に取扱ふ可しとの印あれども其届先なきが爲め如何はせんと思ひたる折柄不思議あるかち此箱の中にて何やらん微かに聞ゆる聲あり因て役員立會の上先つ其箱を開き見るに羊毛を周圍に敷き込みたる中に玉の如き生れ立ての赤兒を入れありたれば一同驚きて彼れ是れと其處分方を評議する内鐵道停車場に永年勞役する質樸一片の老人あり此老人は元來子なく何卒之を養ひたしとの申出あれば兎も角先つ預け置く可しとの言に老人は此箱を引取りて尙ほ其中を檢査するに豈に鬪らんや羊毛の間に百磅の英蘭銀行紙幣を挿み「養育料」として受納す可しと書き附けたれば老

人は大に驚きて之を警察署に届出せしに是れ全く老人の自然に授かりたる者なれば其儘收めて苦しからずとの事にて老人は棄兒諸共に百磅の養育料を得たりと云ふ又或る時蘇格蘭グラスゴー府の國會議員某氏が役目種倫敦に赴かんとて同府の停車場に到り上等瀛車に乗り込みて將さに出發せんとする其前身裝の立派なる一婦人が供をも連れず小兒を抱きて其室に入り來り只今一寸用事ありて車外に出づれば何卒御氣を附け下さる可しと頼み置きて出で去りたる儘歸り來らず瀛車は既に出發せんとし國會議員は頻りに四方を見廻して婦人は如何せしやと氣遣ふ内瀛車は最早出發したり次ぎのステーションに到りて其次策を驛長に語り定めて乗後れたる者ある可ければ小兒を此處に留め置きて婦人の來るを待つ可しとて扱て小兒を抱き上げれば其小兒を包みたる立派ある箱物の間より一通の書狀を見出した

開き見れば身分よき人を見込みて此小兒を托する積りあれば見込まれたる人は何卒これを養育せられたし左れども他日成長の日に至らば都合に依り此方より名乗り出で、養育料等萬端これを幾倍にして償ふ可しとありたれば國會議員も止むを得ず終に其小兒を引取りて之を養育したりと云ふ凡そ英國各地の風俗は中等社會は最も嚴格正直にして品行等も正しけれども上流と下流とは腐敗したる者多く右の棄兒の如きは孰れも此上流の人が不品行の結果を蔽はんとして斯かる窮策に出でたるものあり下流社會には庶子あるも救貧院等の仕組あるが爲め外聞に顧着せざる者の常とて之を棄兒と爲さんよりモ流石子を持つ親心にて筋道の知れたる處に入れ他人に養育を托すれども上流の人は外聞を憚り不品行の結果を蔽はんとして棄兒の窮策に出づるものならん蓋し英國各地にて救貧組織の行届きたるは右

人は大に驚きて之を警察署に届出せしに是れ全く老人の自然に授かりたる者なれば其儘取めて苦しからずとの事にて老人は棄兒諸共に百磅の養育料を得たりと云ふ又或る時蘇格蘭グラスゴー府の國會議員某氏が役目柄倫敦に赴かんとて同府の停車場に到り上等瀛車に乗り込みて將さに出發せんとする其前身裝の立派なる一婦人が供をも連れず小兒を抱きて其室に入り來り只今一寸用事ありて車外に出づれば何卒御氣と附け下さる可しと頼み置きて出で去りたる儘歸り來らず瀛車は既に出發せんとし國會議員は頻りに四方を見廻して婦人は如何せしやと氣遣ふ内瀛車は最早出發したり次ぎのステーションに到りて其次第を驛長に語り定めて乗後れたる者ある可ければ小兒を此處に留め置きて婦人の來るを待つ可しとて扱て小兒を抱き上ぐれば其小兒を包みたる立派ある新物の間より一通の書狀を見出したたり

開き見れば身分よき人を見込みて此小兒を托する積りあれば見込まれたる人は何卒これを養育せられたし左れども他日成長の日に至らば都合に依り此方より名乗り出で、養育料等萬端これを幾倍にして償ふ可しとありたれば國會議員も止むを得ず終に其小兒を引取りて之を養育したりと云ふ凡そ英國各地の風俗は中等社會は最も嚴格正直にして品行等も正しけれども上流と下流とは腐敗したる者多く右の棄兒の如きは孰れも此上流の人が不品行の結果を蔽はんとして斯かる窮策に出でたるものあり下流社會には庶子あるも救貧院等の仕組あるが爲め外聞に顧着せざる者の常とて之を棄兒と爲さんよりも流石子を持つ親心にて筋道の知れたる處に入れ他人に養育を托すれども上流の人は外聞を憚り不品行の結果を蔽はんとして棄兒の窮策に出づるものならん蓋し英國各地にて救貧組織の行届きたるは右

の事情を以て推知することを得べく自然か故意かは知らざれども兎に角彼の富豪家中には平常その富豪を誇ると同時に又時として貧者を憐み往々一滴の感涙と共に其平生の不平を洗ひ去らしむるの機轉あるものゝ如し此機轉は英國に於て彼の社會黨の勢力をして極端猛烈ならしめざるの一原因ならんか經世の事に志ある者は何れの國にても殊に此邊に注意する所あかる可らざるなり

芝居

芝居は夜間の遊興として最も大切なるものなり芝居に種々の階級ありて下等人種に適するものあり上等客を娛ましむるものあり其下等なるものは音楽唱歌を専らにし年若き婦人あどが打揃ふて歌を誦ひ肌襦袢を着て殺風景ある舞蹈を爲し卑猥雜駁下流人を悦ばしむるの工風にして斯かる芝居座には醜業婦人などの出入するもあり又一種

寄席の如きものありて一幕毎に狂言を換へ或は早變りを演ト或は輕業を爲し或は手術を遣ひ或は一二百名の女隊が舞臺に於て派山やかある踊を爲す等の趣向あり倫敦府中此趣向の最大なるものはアルハムブラ及びエムパイヤの二座にして規模至て宏壯なれども風儀正しき人々は多くは之れに出入するを好まず身分ある貴婦人などの前にて是等の席亭に到りたりあど談ずるは其の忌諱に觸るゝ程の事なり扱て又倫敦府中にて有名ある芝居座を算ふればライセアム、クライテリオン、プリンスオフウエールス、テリリー、ゲーター、コヴェントガーデン、ヘーマーケット、オリンピック、ピック、スタンダード、ポード、デヰギール、ツロリー、レーン等を以て唱首とし此芝居座の狂言は自から其種類を分ち例へば彼のライセアム座にてハエンリー、アーザ、ギン、エレンテリーの兩優が主と爲り重きにシー、エクスピアの作を演ト座中萬端上品にし

て上流社會の見物客多し又ツライテリオンにはビヤモンドツリーの如き名優ありて是れモ上流の人を客とし禮服を着けずしてドレッツサアクル。オルチエストラ(ドレッツサアクルハ舞臺の向棧敷にしてオルチエストラハ前面土間なり西洋芝居にては此二席及びボックスを以て上等席とす)等に入るを禁する程にして狂言は餘り時代物に偏せず多少の滑稽味を含みたる所謂コメデーを演ずると多しツロリー・レオンは大仕掛けの芝居に有名にして舞臺中に軍艦を持出し若くは火事の場を演ずる等その趣向は様々あれども道具立ての大なるを以て勝れりコヴェントガーデンは多くはオペラ即ち能狂言を演ずると多くゲーテ・サポイ・ボーデヴキール・ツリー等は世話物などの興行を主とし何れも立派ある芝居座にして見物料は座席の異なるに隨ひ一席十シリングより一シリングに至るまでの相違あり又彼のホ

ツクスと稱する特別棧敷は四五人入りにて二ポンドより五ポンド位までとす興行は時にマチニールとて午後二時頃より三時間ばかり開くとあれども夜の八時頃より十一時頃まで凡う三時間を以て通常とし一席にてモ二席にてモ自由に之を買ふとを得るが故に芝居見物に赴かんとする者は電話機若くは電信にて豫め席の番號を定め置く者あり或は前々より芝居座に到りて切符を買ひ置く者もありソハ免れ角も目下倫敦にて有名なる役者は先づ指をヘンリー・アーヴンに屈す此役者は相應の學識ありて其交際も至て廣く自家獨擅の工風ありてシエークスピアの作を演ずる時などには其用語發音等に就き往々文學上の新見解を立て新聞紙上の議論を動かすとなきに非ず左れば氏は役者中にてモ一種特別の待遇を受け社會に立ちて一個の紳士たるの資格を具へ女皇陛下の宴會などにも往々召されて參席するとあり

氏の十八番中にはシエークスピア作のハムレット。マクベス。ウエニス商人ゲーテ作のハウスト等あり氏は足に不随意の部分あるが爲め舞臺中にて体勢悪しく音聲は舌に粘りて明瞭あるざる所あれどモアーグキン最負の人々は此不明瞭ある所に一種の味ありども云ふエレンテリーは女優にして其技藝に至りては殆んどアーグキン氏を壓するの趣あり此男女兩優相待て益々その技倆を映發するものある可しテリー座の主人テリー氏は滑稽狂言を以て勝りヘーマーケット座のピヤモンドツリー氏は何事に掛けても器用にして殆んど我菊五郎に類しゲーテ座のソームス氏は滑稽中に一種云ふ可らざるの奇味を含み近來の狂言ユニオンジャック中にて水夫を扮する其巧妙又ドットルキユーピット中キユーピットを勤めて輕快あるは他に其敵を見ざるものあらん初め居士の米國に到るや何れの芝居座にも滑稽狂言多

く所謂悲慘劇稀なれば何故斯く米國人は子供らしき狂言を好むやと竊に不審を起したりしが米國の如き國柄にては日常社會繁忙にして如何なる金満家にてモ夫れく受持ちの仕事あり日々齟齬として社會の悲慘劇中に在るの想あきを得ず然るに夜間芝居に到りて又ぞろ悲慘劇を見るは殆んど堪ゆ可らざるものなる可く扱こそ米國劇場に一種滑稽流の狂言のみ流行するとあらんと思ひたりしが英國にてモ大同小異彼の悲慘的の狂言は割合に少なく滑稽流狂言并びに音樂優美なるものは殊に婦人客を引き寄せて最も繁昌するの趣あるを見たり芝居座は英米同様にして其立派さも亦相敵せり見物人が禮服あどに頓着せず婦人が帽子を被ふりたる儘上等席に入り込みて背後に坐したる者の迷惑を顧みざるが如き英國には絶つて無くして米國には却て之れあり是れ米國にては婦人權盛んに其我儘を許すに依るモ

のならん英國は例の貴族風に富み見物人中に不作法者あれば爲めに其芝居座の品格を下して高貴人の得意を失ふが故に芝居座にても自然に注意して不作法者並に醜業婦人などを拒絶せりと云ふ今英國役者の技藝を評し之を佛米等にて有名なるブリス、サラバルナート等に比較して其優劣巧拙等を叙せば或は好劇家の一餐に供するをある可しと雖も言長ければ他日に譲る

寺院

西洋諸國にては日曜日に寺院に參詣するを例とすれども英米二國は殊に嚴格なるもの、如し中にも彼の米國は宗教の壓制強くして田舎あきと到れば宗教の致す所食膳に酒を出さず又頗る喫烟を忌み喫烟飲酒は一種の犯罪あるが如く思ふ者さへあり然るに英國の方にては概して左程嚴重ならず尤も蘇格蘭地方は宗教熱心家多くして米國流

の嚴格主義を守る者あればも英蘭地方に至りては寺院參詣も隨意にして人あり參詣せざればとて左まで攻撃を受くると亦く唯社會の習慣として日曜日に寺院に參詣すれば先づ之れに服従して參詣は毎家の定例と爲れり斯くて家々參り付けの寺院あればも某の寺院には上手なる説教者が來りたり何寺には懇意の娘が出入せり亦と云ふて時に參詣寺を換ふるともあり勿論社會の習慣として寺院に參詣するものなれば其參詣の人々は深く宗教上の主義を信し見識を立つる者のみに非ず信仰外に別意味ありて寺に赴くものもあらんと雖も兎に角寺院中に入りて殊勝らしく讃歌黙禱し一時間乃至二時間は先づ以て邪念を絶つとされば説法教化の深淺は暫く措き人間一週六日間種々の悲歡苦樂に當りて心さまゝに亂るゝ折柄。毎日曜日に寺院に到りて優美高尚ある音楽を聞き清淨潔白ある讃歌を唱ひば一週間の心

事は此日曜日にやを界まとて改まり寺院は意馬心猿いばしんげんの停車場ていしやうと爲るの趣あり勿論若男若女の中には彼の説法を好むに非ず又唱歌あしを娛あそむに非ず意中の人と同寺院に坐して歸りがげに之れと散歩を共にし平生の心事を語り合ふなど寺院を以て一種結婚媒妁所と爲すの場合も少なからず畢竟年頃の男女などが好んで寺院に参詣するは先づ此邊の意味あるが爲ならんと雖も凡そ宗教道德の事は人の恐怖に乗つて之を懲戒するの道より進まずして其歡喜に乗つて之を勸奨するの道より進まざる可らず日本人の寺に到るは唯葬式墓參の時のみ寺と云へば忽ち物淋あまびしき感覺を生じ好んで之れに近付く者あけれども西洋の寺院は之れに反し若男若女互に相見るとなる場所となり結婚出生共に相悦ぶの場所と爲り死者弔葬の外に別に愉快的の場所と爲るが如き有様あるは彼の國人の多く寺院に群集ぐんしゆする所以ある可し日本の或る

道德學者の説に日本人は從來殘酷苛虐ざんこくかじやくの性質なく多くは善良の人民あれば道德上これを教誘せんとするに是れくの悪事を爲す可らずと禁止的懲惡的方法を用ゐんより是れくの善事を爲す可しと獎勵的勸善的方法を施す方適切あらん云々とありしが此一點より云へば寺院を物淋しき場所と爲し喜んで之れに赴くの念を絶たしむるは好方便と云ふ可らざるが如し又西洋寺院中には禮拜日に賽錢さいせんを集むるものあり参詣人の前に賽錢盆を出して其喜捨きしよを乞ふときは或は十錢二十錢多きは三五圓を投ずるものあり寺院にては之を集めて或は會堂の修覆費と爲し或は附屬の訓盲啞院若くは貧民救恤院等の維持費維持費と爲すものあり其他寺院維持の方法等に就ても見る可きもの極めて多きが如し要するに西洋諸國の寺院は成る可く俗に近くして参詣人の多く集まるを期し人集まれば教化の方も多く其音樂說教等

の間に彼の善男善女をして知らず識らずせむきの涙を流さしめ有縁の衆生度し易き者と爲すを得べきか我宗教家亦ども今後は先づ此邊の事情に注意すると極めて必要ある可きあり

家庭教育

子女の教育を學校のみに任せて優美高尚なる紳士淑女を得んとするは大間違ちがひなり英國にては子女の家庭教育を重んじ行儀作法一切の事。父母自から模範と爲りて之を教諭するのみならずガバーネッスとて一種の教母を家内に雇ひ置くもの少なからず凡そ子女年四五歳より十五六歳までは見るもの聞くもの珍らしく疑問の多き時代にして此疑問を質すに當り其父母に教育あきか若くは多用あるが爲め一々之を説明せざるのみならず或は之を叱り付けて子女智徳の發達を妨ぐるとあるは我日本國なほにて毎度見聞する所なり英國中以上の家族

にては寡婦學校女教師などの中に於て相當の教育ある者を撰み之を所謂教母として子女の教育を任ずるとあり斯くて教母ある者は殆んど賓客の位地を占めて食事には主人夫婦とテーブルを同らし子女に對して權力あり其言ふ所は父母の言と共に輕重なき者と爲し家内は勿論野外の散歩市街の川遊常に子女と同行して問ふ所ある毎に之れに答へ例へば公園を散歩するに草花池魚昆虫等を見れば動植物學上の説明を與へ幼少感覺鋭敏にして記憶力最も盛んなるの際に時々刻々學理的の思想を啓沃するは學校教師が書籍に就て講義説明を爲すものと効益萬々相違するを見るべきなり居士曾て日本の或る富豪者に對して子女の教育に教母を用ゆるの必要を説きたることありしが今日の處にて日本國中此教母に適當する者あきを如何せんとの苦情もあり如何さま我日本國にて女子の高等教育を受けたるは年尚ほ甚だ

淺きが故に多く此流の人を求めんとすれば固より得がたかる可しと雖ども追々女子教育の盛んあるに隨ひ教母適當の人を生ず可きや疑を容れず我富豪家も唯其金を積むとを知り積みたる金を相續せしむる子女の教育を忘るゝと云く機會もあらば彼の教母をせを利用するの覺悟專一ある可し勿論英國家族にては其子女を教養するに彼の教母のみを當てにせず良家の父母が子女の行儀作法等に就き心を用ゆるの迹と見るに實に感服す可きものあり例へば食堂の作法にて体之餘り前に屈み或は後に傾くは行儀好きものに非ずとて子供が膳に對するに當りて体の前後に傾くれば母親は目を以て之を戒め子供は其目色を悟りて直に之を改むるが如き毎度見聞する所あり扱て又中等家族にては其子女を教育するに成る可く家政向きに疎からざらしむるを期し現に居士の知る家族にては父親既に世を去りて母親其家

政に當り男子三人女子二人を世に出さんとするの場合あれば三子を商店及び株式取引所の書記と爲し獨立糊口の道を得せしむると同時に女子には一通りの教育を受けしめ家内に在りては下女同様坐敷の掃除。寢臺の始末。湯殿の取締等に至るまで萬事抜目あく働かしむるは随分嚴重なりと云ふ可し今此家族は中等に位し四五萬圓の身代あるにも拘はらず此嚴重は何事ぞと之を女主人に語りたるに女主人は答へて左ればあり今より凡そ四五年前東隣に相應の家族あり家に一人の娘ありて父母の寵愛一方ならず物見遊山に音楽唱歌に面白く其日を送りたるに一朝父親世と去りたれば母は手元の饒かある儘或る新會社の株を買ふ間もかく會社は失敗して身代忽ちメチャクと云り次で母親も身まかりたれば跡に残りし一女子は下女の使ひ方さへ知らず忽ち零落の淵に沈んで隣家に住むとさへ叶はず昨年田舎の親戚

を頼みて之れに引移りたるを見てツク／＼自から案ずるに妾の家も主人を失ひ此先き妾が瞑目せば跡に残りし五人の子供は如何にして獨立の活計を爲すやと日夜是れのみ苦心して止まず唯此上は女子をして家政に抜目あからしめ男子には夫れ／＼手職を與へて自勞自食の法を立てしめ男女雙方貧に處して窮せざるやう仕附くるが爲め御覽の如き次第ありと其心事を語るを聞き大に感心したるとあり扱て又貴族の家にては風儀も自から高尚にして遊藝も仕込み交際にも顔を出さしめ氣品を養成するを以て家庭教育の主眼と爲せり例へは祖先の油畫を掲げて子女を勸奨するの具に供し君の祖父君には何處の戰に出馬して箇様／＼の功を立てたり又父君は是れ／＼の場合に上院に其説を提出して此くの如くに論争したりと目前其圖畫を示すが故に子女日夕その前に到りて祖先の功勞を心に銘し自然その氣性を

勵ますは家庭教育上に於て最も有功なるものからん蓋し子女年五六歳より二十歳位に至るまでは父母。祖父母。教母等が自から摸本と爲りて之を導くと肝要にして德育を學校講堂の間に全うせんとするは望んで得べからざる事あらん要するに英國中以上の社會にて家庭教育を重んずるの趣は移して我日本國に用ゆ可きか我教育家の最も關心す可き所あり

職 翰

ウエリントン公云へるとありウエリントールの戰勝はエトンの野に在りと英國人が戰場に臨んで屈せず撓まずノソリ／＼と進み行く其氣根の飽まで強きは世人の能く知る所なれども此氣根を養ふは決して偶然の事に非ず平常野外の運動を好み學校書生。商店番頭その他各種の職業に従事する者も土曜日迄には野外に出で、體力を練ると

を怠らず即ちエトン(エトンはウヰンブルカッスルの近傍に在りて有名あるエトンカーレット)ありオックスフォールド。ケンブリッジ兩大學の豫備學校にして在學の生徒は多くは中等以上家族の子弟ありと云ふの曠野にて蹴鞠(けまき)クリケット等に身體を鍛(たく)ひ學成るも決して文弱に流れずナポレオンをウチタールーに敗りたるの勇氣も此處にて養ふとを得たるからん抑も英國にて身體を操練するの遊技二あり一はクリケット一は蹴鞠即ち是れあり此二遊技は英國特有の者にして濠洲。加奈太。亞米利加等英國人の移住播殖したる土地柄には自から此遊技の流行するあれども歐洲大陸諸國にては絶て之を演ずる者あしと云ふ斯くてクリケットの時節は四月より九月に至る迄にして氣候温暖の時節なれば人の群集も亦多けれども蹴鞠は十月より三月に至るまで氣候寒冷の候に行はるゝが故に其時候に相應して遊技の趣も自

から異なりクリケットは棒を以て鞠を打つ人。場外に飛び出づる鞠を見掛けて徒手にて之を受け留むる人等各々受持の部門ありて總勢同様に働かざれども温暖の時候なれば是れ亦可なり蹴鞠は之れに反し寒冷の候に行はるゝが故に始終その體を動かすを期し隨て運動も頗る荒く時として怪我を負ふものさへあり今蹴鞠の遊技は總勢二十二人より少くならず二十八人より多からざるの人数より成り立ち此人数を折半して一方に十一人若くは十四人づゝ立ち列び雙方にゴールとて鞠を蹴込む可き場所を置き何方にても敵陣のゴールに早く鞠を蹴込みたる者が勝利を占むる事にして總勢一箇の鞠を取り合ひ之を敵陣に投げ込まんと一度に運動する其活潑。譬ふるに物なし又この二十二若くは二十八人の外に二人の審判役ありて能く雙方の秩序を保ち勝敗上に爭論ある時は萬端その判決に服して之れに背くと

能はざるものとす又雙方ともキャピテンとて一個の總大將を定め其大將の號令に依りて運動掛引するものなれば此號令の宜きを得ると否とに依り勝敗に相違を生ずるものとす兩軍相戦ふときは夫れく要害の線路あり又此線路に規程あり又鞠を蹴込む可きゴールの位置にも定例あり其日の風向き并に地勢は勝敗に關すると大あるが故に雙方開戦前に於て最も意を致す可きものとす見物人はゴールの背後に在りて之を見物するを例としゴールの位置には赤白の旗を懸へし軍陣に勇ましき外観を添えゴール即ち本據の前部は精兵を以て之を護衛し互に其堅固を極む勿論この遊技中には種々込み入りたる規則ありて其勝敗の數を制すれども言長ければ爰に贅せず扱て此蹴鞠に二種類あり一をアツツシエーションと云ひ一をラッペと云ふアツツシエーションの方にては總べて足のみを用ゐて鞠に手を觸れざる

が故に遊技柔和にして怪我も殆んど稀なれどもラッペの方は手を以て鞠を取り合ふが故に鞠を追ふて互に推し合ひ推し重なり其下に壓せられたる者は怪我を爲し呼吸を絶つとなきに非ずアツツシエーションの方にては鞠に手を觸れたる者は直に之を場外に追出し敵に一人を減するの定めなれば唯其足一方を用ひ鞠を蹴るの熟練に依り大に其勝敗を左右すと云ふ英國人は右の二遊技を好みて四時野外の運動を怠らざれどもリケットは恰も彼の玉突の如く腕力以外の熟練を要するが故に勝敗の間に興味を添ゆるのみならず其季節は四月より九月までにして殊に野外の運動に妙ければ貴婦人の傍觀も極めて多く隨て之れに景氣を添へて最も人氣ある遊技とは爲れり現に昨年中英國及び濠洲のリケット家が相會して其勝敗を争ひたる時一万五千の見物人ありたるが如き同國人の之を好んで之を見物する

の多きを見る可し蹴鞠季節即ち十月より三月までは學校生徒商館番頭其他少壯の人々は時間を演説討論等に費し夏期は身體を練り冬期は精神を練るの趣あるが故に彼の蹴鞠を事とする者はクリケットを弄ぶものに比して殆んど半數にも及はずと云へり兎に角英國人が其職業の如何を問はず概ね野外の運動と好みクリケット蹴鞠は申すに及はず或は義勇兵として時に對抗運動を試み或は夏期休暇に際して自から軍港に出張し籍を海軍義勇兵中に加ふるが如き其勇氣實に感ず可きものあり殊に居士の感服したるは彼の畫工に義勇隊ありて年々五月頃と爲れば畫工隊が野外に出で、對抗運動を試むるとあり平常丹精に従事して其錦心繡腸を絞り風流文雅を事とする者が一朝國家多事あれば筆を投じて戎軒を事とするの氣概あるは今日彼の英國の世界に獨歩する一原因あらん我國にては從來野外の遊技に乏



別荘(ブイタートフ) 東京(大田区)



しく人々その身體を練るの機會なきが故に擊劍なり水練あり何事に
依らず身體操練の氣風を振起するは實に現時の急務なる可し居士は
英國の人々がクリケットに蹴鞠に其野外運動の氣風に富むを見て
竊に欽羨に堪へざるあり

贈 答

英國人は平常客に對して茶菓を出すに極めて稀あり蓋し飲食の時間に
限りあり毎日午後四時頃を喫茶の時とし此時刻に來客あれば共に之
を與にすれども其他は客席に飲食物を見受けず勿論交際家の寄合
れば人を晚餐に招くなどの場合は極めて多く中以上の家族にては主
人の好尚如何に依り學者文人技藝家等を延き食卓上に快談一夕を永
らする者多く是れより以上ソワレと云ひコンバルサゼオチと云ひ互
に招き招かれて其賓客の盛んあるを誇れども平常音問の客に對して

茶菓等を勸むるとなきは社會一般の風として敢て怪まざるものある可し將た又平常人に對して物を贈ると頻繁ならず彼の國にて物を贈るは婚姻旅行疾病出産及び耶蘇祭日等の場合は是れなり日本にては物を贈ると頻繁あるが爲め其品種を撰ぶに暇わらず例へば病氣見舞として胃病人に菓子等と贈り其贈りたる品が贈られたる人の用を爲すや如何は始めより問はざるものゝ如し然るに西洋の方にては物を贈るに先方の嗜好を審にして之れに投ずるを謀るが故に瑣細の物も被贈者に對して無上の喜悅を與ふるは是れ亦自然の結果ありと云ふ可し又彼の耶蘇祭日にはカードと稱して通常寫眞面大の畫紙に贈者被贈者の姓名を記し或は祝賀の意を筆して之を贈るを恒例とし新年祝儀も同様なり此際の贈品は格別價の高きを撰まず祝賀の意を表するに其趣向の面白きを誇れり左れども平常世話になりて何か謝禮せ

んと思ひたる者にはカードの代りに多少の物品を贈るとあり居士も此耶蘇祭日に逢ひ誰れには何を贈らんかと心を勞すると少なからず是れ日本人にては容易に彼の國人の嗜好を詳かにすると能はざればなり斯くて一昨年十二月二十四日即ち耶蘇祭一日前には豫め其寄贈品を見立て殊に倫敦の知己中には二女三男ある家族あり一々物を贈るも面倒あれば一纏めにして五人に贈るものさきやと考へたるに此五人の兄弟は顔色何れも猿に肖たれば一番寓意を含みたる寄贈物もがなど或る骨董店に到りて吟味したるに不斗日本製の陶器にて五疋の猿が柿を争ひ居る所の置物あるを見たり價を問へばハシルリングありと云ふ随分高直の物あれども是れ寄贈物として一笑を博するに足る可しと直に之を廻送せしに一日を経て其姉娘より返書あり君の贈品は實に一家中の好評を得たり其意匠の面白きは一同大喜びにし

て殊に其猿が兄弟と數を同らし又其顔色を同らし他家にては幾萬圓の金を出して銘々の肖像を畫かしむる者あるに御贈品に依り我々の肖像は手もなく一家に備はりて然も甚だ上出來あるは感謝千萬あり呵々どあり居士はハタと膝を撃ち彼れ果して我寄贈の意を解せりと思はず一笑を催したりき

エギンバラ府

英國中に都府多しと雖ども倫敦は極めて廣く銅炭を塗りたるが如き屋壁人面より起りて雲を衝くばかりに聳り市中に居る者をして爲めに愉快の感あからしむマンチエスターは製造地にして烟突の煙は天を蔽ひ一時間毎に鼻孔を掃除せざれば呼吸に差支を生ず可くリヴァプールは船渠労働者多くして足に靴を穿たざる貧乏人の目に觸るゝも妙ならず獨り一種の奇景を有し高雅清淨愛す可き者は蘇格蘭のエヤ

ンハラ府即ち是れなりエギンバラは文學地にして同府より發行する雜誌書籍は極めて多く市人の職業重きに清潔なるが爲め市街も亦頗る美麗あるが上に當府は往時蘇格蘭王駐蹕の處なれば王宮にはホールロードの遺跡あり古城は高く雲外に聳えて市中何れの部分よりも之を仰觀するを得べく城上より市街を見下だせば一府は兩眼の中に收まりて恰もパノラマを見るが如し傳く聞へ彼のパノラマはエギンバラ府より起りたるものなりと畢竟その地形に依りて之を發見するに至りたるならん市中殊に立派あるはプリンセス街とて古城に面したる本通りあり見物人の多き都府あれば見事ある旅館軒を列べ路を隔て、前面一帶に鐵欄を結び欄外古城の麓まで樹木蔚蒼たる中に谿水潺湲として流れ谿上數條の歩道ありて處々に珍らしき草花を植付け花紅水綠映帯して益々趣を添へるものゝ如し又此プリンセス

街の中央に有名なる文人ウチルタースコットの記念塔あり中にスコットの像を安置し金碧煌々一文人の記念塔にして斯くまで壮大なる者は世界古今に比例なしと云ふ今蘇格蘭人がウチルタースコットを敬重するは自から其故なきに非ずスコットは有名なる文學者にして其靈妙生花のペンは能く風物景色を寫し蘇格蘭の山水として忽ち其價を増さしめたり殊に其著述中レデオフゼレーキなどの中には有名なるロッツカトリン湖の景色を記し湖光山色筆勢に和して益々その縁を添ひ所謂秀語奪山縁の趣ありたればスコットの詩天下に出で、世人蘇格蘭の遊を思ひ別莊等を構ふる者も多きが爲め同地の繁昌を助けたと少なからずと云ふ即ちスコット一枝の筆は蘇格蘭の山水をして大に其名を發せしめたる者にして同國人が其徳を思ふて之を欽仰敬重するは徳に報ずる厚きものと云ふ可し居士はグラスゴリーの

博覽會見物に赴くの途次エザンバラ府を一覽せんと先づ同府に赴きてカレドニヤンホテルに投トたるに館内の飾付けも風雅にして給仕人の質樸なる市街を往來する馬車の立派にして之れに乗りて見事なる市街を通行すれば半日萬戸侯に封ぜられたるの想ありて其快適得て云ふ可らず又ホテルの食堂なども他府の旅館と異なりて恰も家族團樂の趣を存し例へば尋常のホテルにては圓きテーブルを所々に置き一組くの客人は三々五々思ひくに各所に陣取り一齊に食卓に就かざるを常とすれども當旅館にては食事の時に鐘を鳴らして來客一齊に同食卓に就き萬里始めて相逢ふの人。一夕の會食を共にして互に異郷の見聞を叩き談笑の間に其興を分つが如き旅人をして一層の愉快を覺ゆしむ可し此食堂には伊太利よりの遊客ありとて同行五六人の連中あり中に年頃二十五六の婦人は畫師にして品格高く英語を

談すると巧にして好んで人と語るが爲め自然この食堂を支配する一個の女王たるに至れり又亞米利加金満家の子ありとて二人連れの年少者あり金より外に人間の求む可きものおしと思ふ人々なれば如何で此美なる風景を賞するの念あらん鼻に掛りたる高聲を揚げ頻りに自慢する所は自國有形上の進歩にあり例へば瀛車の速くして電信線の甚だ長く電話機の盛んにして電氣燈の光り燿くを自負すれども語の山水風景に及ばざるは伊太利人おどの竊に怪む所ある可し食事了りて來客一同客室に集まり食堂にて開きたる話の緒を續ぎ互に其所感を語るは亦是れ旅客の一興あり抑も當府の歴史に於て伊太利と關係と有するものあり千五百六十年頃クウェン、メリーとて英蘭のエリサベス女王と時を同うして蘇格蘭を支配したる女王ありダインレー卿と結婚してホーリールド宮に住みたりしがメリーの寵臣に伊太

利人リッジョーと稱する者あり女王の寵遇深かりければダインレー卿は憤恚に堪えず一日女王がリッジョーと夜食を共にする所に至りて終に之を刺殺したり左れば伊太利人の連中は明日居士等とホーリールド宮に至りて其遺跡を訪はんとて互に同行を約したり然るに例の米國人は古跡おと云ふとは耳にも掛けず頻りに英國瀛車の不便利なるを語り米國の瀛車の速力異常なるを誇りければ伊太利人等は之れに向ひ倫敦エヂンバラ間の瀛車は英國中最も迅速あるものにして其急行列車の如き一時間五十英里を踰ゆる由なれども米國の瀛車は其速力如何と問へば米國人は大得意にてイヤ其迅速あるは中々言語に盡し難し今その有様を形容せんに或るステーションより旅立ちする亭主が今や瀛車出發せんとするに際し窓より首を差出して其細君と接吻せんとする此時早し彼時遅し瀛車は次ぎのステーションに

着して細君とキッスせんとしたる其口が次ぎのステーションに立ち居たる婦人の口に打當るなどの談さへあきには非ず何と迅速のものあらすやとて國自慢の聲高きまゝ一坐孰れも興に入りて旅中の無聊を慰めつゝ頓て寢所に赴きたり

翌朝早く食堂に入り食事了りて例の客室に待ち居たるに伊太利人も此室に集まり米國人も亦來れり總勢七人旅館を出で美麗なるプリンス街を通りて左手に進むと十町ばかりにして一宮殿の前に出でたり即ちホーリールド宮にして流石古代の建築なれば全館蒼雅の色を帯びて自から當時の名残と留め宮に背する高丘は石壁嶙峋として草木なく前面に高く古城を望みて其風景の優美高尚なる得も云はれず宮中には中央に四角形の庭ありて三層の建築これを環り宮殿に引續きて一個寺院の跡あれども是れは既に零落して唯その斷礎額垣を

見るのみ其中に入れば四顧寂寥として人をして吳宮花草埋幽徑晉代衣冠成古丘の感あらしむ夫れより更にメリー女王の寢室并びに化粧部屋などを一覽し又彼のメーソレー卿がリッジョーを刺殺したる遺跡をも見たりメリー女王の寢室は寢臺始め其儘に存して四壁にはマペストリーとて人物花鳥等の模様を織り出したるものを蔽ひ建築全體窓狭くして土藏の如く自から幽暗の趣あるは當宮に限らず英國中の古建築何れも然らざるはなし例へば倫敦塔の如きウァンツルカツスルの如き斯かる館内に住みたらんには定めて鬱陶しかる可しと思はるゝ程あり蓋し英國の建築風は總べて堅牢武骨にして唯其大丈夫なるを期せり然るに我日本にて西洋館を建築する者は東西風土の異なるを知らず烟霧多く雨風時あらざる英國の建築法を執り山水明媚眺臨絶佳の場所柄に窓狭く室暗き煉瓦屋を構造する者あるが如き心

得違ひの甚たしきものと云ふ可し居士は英國の宮殿に入り己れ自から之に住みたらば如何との想像を起す毎に常に不愉快の念を起さゝるとあし殊に此ホーリールド宮の如き人文の未だ進歩せざる時に構造したるものなれば當時榮華を極めたる國王の居城も其快適の度自から低く今人より之を見れば竊に憫殺せざるを得ず扱て是れより古城に至りて之を見物す可しとて左手に向て坂路を登れば次第々々に登り詰めて最頂點に達したる處に古城あり三面は峭壁削るが如く一面は市街に引續きて天然の堅城。終古の奇觀。古雅雄壯無類されども周回七八丁ばかりにして最上に砲臺の如きものあり其上に立て全府を望めば一望眼中に收まりて景色の美あると云はん方あし是れより先き居士は英國南方海岸なるヘスチングにて其古城跡を見たとありしが形何れも小にして此城中に引き籠るは唯最後の防禦に在り

敵外部より攻め來れば之を市廓外に防ぐの都合あれば其市外に城壁を環らし本城の如きは極めて小ありチャールズスワルク氏著グレートブリテンと稱する書中明治七八年頃日本に來りて播州邊の古城を見たる記事あり氏は其城郭の廣大にして城中に田ありて耕作を爲し籠城の用意周密ある事實を叙し頗る奇異の感覺を表したりしが如何さま英國の如き掌大の城郭を見慣れたる者は我城郭の偉大あるを見て之れに驚くとある可し

古城を見了りて城門を出でたる處に四層の高樓高く聳ねて一際目立ちたる一塔あり何物ならんと仰ぎ見るに市街全景一覽所と云へる標札ありて入場料は五錢ありと云ふ如何ある工風にやと其塔を登りて頂上に達したる處に暗室あり中央に圓形のテールを置き其上に白布を張り反射鏡を以て全景を布上に反射せしむるの工風にして濃抹

淡粧色彩を存して暗室中に一個の小エザンバラを現出するは亦是れ客引きの一趣向ありと云ふ可し日本にても愛宕山若くは上野公園等に此趣向を設けたらば東京市街を縮寫するの一仕掛として好奇の見物人を引き得るあらんと居士は頻りに感嘆したり見物に時を移す中。最早午餐の時ともあれば一同引連れて旅館に歸り午餐を了りて例の客室に來りたる時。伊太利人の一行は是れより芝居見物に赴かんとして居士に同行を促がせり西洋芝居は大抵夜間興行あれども大入芝居に限り時にマチニと稱して土曜日若くは金曜日の午後二時頃より晝興行を爲すとあり當日の芝居は晝興行のものにして其狂言は例のレデーオフゼレーキ(湖上の美人)あり是れは千八百十年にスコットの著述したる者にして蘇王ゼームス二世の剛勇酋長ロドリッソシュエーの猛悍を寫し湖上美人の情事を寫し山水風景の美を寫して蘇格蘭を

一種詩人的の天地に變トたる者にして蘇格蘭にて此芝居を演ずれば日本にて忠臣藏を演ずると同様。常に大入からざるなく扱こそ此芝居にマチニ興行あるものならん居士はスコットの詩と好み殊に湖上の美人を愛讀したりければ直に其誘引に應トたり原作は七八十年前の者なれば當世人の目にはサト古臭き所あれどもシェークスピア作の時代物なぞ、違ひ歴史直叙の弊を去り紆曲折變化の妙に富むが故に舟行若窮忽無際。見物人をして幾回か手に汗を握らしめ拍手喝采劇場中に充滿したり見物終りて旅宿に歸り晚餐後伊太利女番師と相携へて市街を散歩せしに當夜は我舊曆八月の中浣にして常には晴れやらぬ英吉利空も所謂イタリヤンスカイの如く明月一輪古城上に在りてウナルタースコットの記念塔邊は一種詩人的の天地と爲り夜更くるまで風流を語りて共に此夕を永うしたり

エトントン館は英國チエシヤより凡そ五英里の處に在り英國最富の貴族ウ
エストミンスター公の本館にして巍然チー河の畔に聳え邸内八英里四
方と稱す今チエシヤより馬を驅りて風致に富みたる田舎路を三英里ば
かり進みたる處に鉦大なる石造弓門あり門に入れば大道坦々として兩
側の森林二英里に亘るは扱てく長き玄關先きと云ふ可し館の前手
二三丁の處に到れば柏樹天を摩して深聲處々に起り閑雅幽靜太古の
如き其中に數十軒の煉瓦家屋あり此家屋は何れも公のワッサー即ち
臣屬の住居にして昔し我大名屋敷に藩士の住宅ありしに同ト是れよ
り本館に近寄れば層樓傑閣雲を凌ぎて偉觀名狀す可らず正面の大門
は鐵造にして所々に紋所の透し彫りあり之れに金粉と點トたれば壯
嚴にして陸離たる光彩を放ち山水清麗の中に華奢を極めたる建築の

屹然として高く聳ゆるは又一層の風致ありと謂ふ可し居士は當家の
説教師モリス氏と別懇の人よりして一通の紹介狀を得たれば先づ裏
門に到りて案内を請ひ同氏に面會を申入れたるに氏は當日居士の來
遊を待ち受たりとて是れより直に案内したるは此大建築中に於て最
も有名ある説教堂あり本堂は當公の家族及び其臣屬が毎日曜日禮
拜する所にして内に説教堂を置き又説教師を抱へ置くを見て亦其
規模の大なるを知る可し堂の内部は柏材を用ひ硝子窓には宗教上の
聖賢圖を畫きオルガン、ピアノ等を始め一々精撰ならざるなし是れよ
り更に本館に至り正面大玄關に入り込めば控所十間四方もあらんず
らん一面に色變りの大理石を紋様に敷き詰めたる其立派さ目を驚か
すばかりあり蓋し西洋建築中には石材を用ゆると多けれど日本に
ては古來石工術發達せずして建築大抵木材のみを取り人をして其材

料の不足を感せしむ是れ日本の器械國ならざるが爲め彫石細工の妙を得ずして自然木材一方に偏したるものある可し扱て此大玄關には四面相對して大理石の裸体像を飾り雅致足らざる所あれども豪華餘りありと云ふ可し是れより館内を案内されたれども一々記するも煩はしければ之を畧して扱て居士の注意を惹きたるは其客室及び書籍館是れありテーブル若くは書棚等は金銀珠玉寶石を彫め満室五彩燦爛として目を驚かすばかり之を形容せんとするも筆舌の及ぶ所に非ず書籍館には當家の祖先がウェリヤム勝王に従て苦戰奮闘する其戰場の油畫を掲げたるが最も傑筆なりと云ふ此他館内處々に掲げたる油畫は伊佛等に有名なる畫家の筆跡にして一枚五萬圓乃至十萬圓に上るものも少なからず殊にルピンの濃色宗教畫ルピンは重モに淡彩色を用ひ濃色の畫極めて少あきが爲め此畫最も珍貴なりと云ふの如

き歐洲諸宮殿中にも見當らざる者にして當館には此他ルピンの畫にして上出來なる者甚だ多しと云ふ是れより次第に二階に登れば日本間支那間あど云へる者ありて日本間には總べて日本の器物を用ひ支那間は總べて支那品を飾り之を調達したる其費用は實に莫大の者なる可し且つ殊に驚く可きは館内に幾十箇の寢室あり是れは英國皇太子の寢室あり夫れは何々公爵の寢室ありなと皇族若くは貴族あど云爲めに特別寢室を定め置く事是れなり今英國皇太子の寢室ありと云ふを見るに寢臺は革張りにして其上に毛入りの白蒲團を敷き平常之れに白布を張りて塵埃に穢るゝとを防ぎ寢室に連りて數房あり就眠前後に衣服を脱き若くは盥漱を爲す等の便に供すと云ふ夫より食堂庖厨を一覽して更に玉突室に至れば結構なる玉突臺數脚あり室隅に一馬の油畫を掲げたるは如何ある者なりやと尋ぬるに是れは當公の

愛馬にして其駿速あるは殆んど歐洲第一と稱し何れの競馬場にても敗を取りたるとあきか故に此程肖像を畫かしめたるが此馬の價は實に一萬四千磅ありと云ふには居士又一驚を喫したり扱て此玉突室と食堂との間に廻廊あり其硝子窓に畫きたる彩色畫は當國有名の詩人テニソンの詩意を寫したるものにして第一は *Idylls of the King* と題する詩にして淑良の聞ありしグレイン公妃が公の嫌疑を受けたる處。次は公と三會長との決闘を妃が氣遣はしげに望見する處。その次は公の殺されたるを見て妃の戰慄恐怖する處にリモール伯が出で來りて三會長を驚かす處を寫し又一方には是れも同トクテニソンの詩にて有名なる *Guinevere* の事實に據り宮女エレンなる者ランセロなる者を慕ひ互に相思を語る處。ランセロが獨身者たるを誓ひエレンの愛情を絶たんが爲め別を告げずして立ち去る處エレンが其情人に絶たれて憂鬱終

に死を致し年老たる驍僕が其遺骸を小舟に載せて之を王宮に送る處等の圖を掲げたり是れより庭前に立ち出づれば正面に大なる池ありて池の周圍には例の四角形の花圃を繞らし此の花圃に引續きてダラ／＼下りに下りたる處にテー河の潺湲として流るゝあり大理石の人像は處々に立ち硝子張りの花室は中に萬國の芬芳を貯ふ實に是れ善盡くし美盡くして殆んど一言を發する能はず殊に當館の落成したるは僅々數年前の事にして歐洲近代の技術工藝を集めたるものあれば十九世紀下半に於ける西洋館の摸範として世界に誇る可きものあらん惜むらくは華奢宏壯の能事を盡くしたる程に閑雅風流の趣に乏しく居士は當館を詠する長篇の結に解否東山銀閣趣。萬蘿深處月光青と云へる一句を點トて竊に其不風流を諷したり斯くて見物に四時間餘を費し午飯の時刻にも至りたれば長々しき柏の并木を通り抜けてモ

リス氏の家に赴きたり午餐を了りて客室に入るや居士はモリス氏に向ひウエストミンスター公には常に本館に住するやと問ふに氏は答へて公は倫敦季節の間丈け倫敦に留まり夏秋の交には歸館して仲秋より蘇格蘭の別邸に至り當館に居るの時日極めて少なし留守中は本館を見物人に示し一シルリング宛の見物料を取り之を集めて慈善病院等に寄附するの趣向ありと云ふ居士曾て某英國人に聞くに英國にて貴族の爵位を進むるときは内閣の評議を待つを例としウエストミンスター公の公爵を得たるは是れより先きグラッドストーン氏の宰相たりし時にして氏の盡力與りて力ありとの事あれば公の臣下は何れモグラッドストーン氏を徳とするならんと思ひモリス夫人が居士に向て日本にてモグラッドストーン氏を知る者ありやとの問を發したるを幸ひ大老人と云へば何れの地にても知らざる者なしと言未だ終らざ

るにモリス氏の顔には一朵の雲が叢々として現はれて其氣色を損じたるものゝ如し居士は何故にや知らざれば暫く其様子を窺ひたるにモリス氏は稍やありて心付きたるが如く苦笑してグラッドストーンの名高きは彼れ政府に在りしと久しきが故あり左れども彼れに政府を渡さば又何事を爲すやも知れずとて頗る不快の顔色を爲したりグラッドストーンと云ひパーチルと云ひ急進の傾きあるものは保守貴族流の蛇蝎視する所にしてモリス氏の如きも矢張り此空氣中に在るものある可し居士も詰らぬ人物評にて主人の機嫌を損つたるを悔は是れより談柄を他に轉つて日暮去てリヴァプールに歸れり

大學競舟

長江の兩岸群衆山の如し唯見る江上二艘のボート其距離甚だ相接して快駛殆んぞ矢の如し之れに尾し來る小蒸漁船には新聞記者等が乗

り込みて時間距離等を記録するあり看るく、ボートは流れを截て跡
 白波と隠れ行く其後影を見送りて群衆一度に喝采す是れテームス河
 上に於けるケンブリヂ。オックスフォールド兩大學の競舟あり抑も此兩大學
 の競舟は千八百二十九年頃より始まり一年一回テームス河上に勝敗
 を決するものにして居士の之を見物したるは昨年三月二十日なり此
 日居士はテームスの上流あるハムマースミス橋を渡りて夫れより益
 々上流に向ひバルンス橋の邊に到りてボートの來ると待ち受けたり
 しが此競舟の發點は河の下流プトチー橋より始まりて四英里上流に
 溯りバルンス橋より半英里ばかりの處にて勝敗を決するにして従
 來の例に依れば此四英里間を二十分乃至二十五分位にて乗り切る由
 近年の競舟には大抵ケンブリヂ方が勝ちたるを以て今年なほは最
 早オックスフォールドの勝と爲る可きか否々矢張ケンブリヂあらんと群

衆の評判大方あらず且つ勝負事を好むは英國人の習ひ老若男女皆あ
 争ふて見物に出掛けオックスフォールド。競漕手は濃青帽を用ひケンブリ
 ヅは淡青帽を用ゆるが故に見物人中最負に依りて或は淡青色のキ
 ャップを被ふり或は濃青色の襟飾りを着け或は濃淡各色の勳章を掛
 くる者多きを見れば其勝敗に關心すると極めて深きを見る可きなり
 斯くて居士は群衆を推し分けバルンス橋の近傍に到りたるに河上の
 家は見物客を以て充たし兩岸には見世物飲食店等殆んど立錐の地を
 留めず丈高き英吉利人が一帶に人の壁を築きて容易に近付く可きに
 非ず籠中の鳥が首を籠外に出さんとするが如く處々方々隙を狙ふて
 前手に推し出さんと試みたれども如何で此厚き人壁を穿つことを得ん
 幸ひ河岸に石垣あり之れに攀ち登りて一望すれば實に望外の好場所
 あり頗で競舟の來るを見るに形極めて長くして且つ細く兩側に四本

の櫂ありて總勢八人之を漕ぎ外に一人楫を取りて一艘に都合九人を載せ雙方目方を吟味して其間に相違あれば一方に夫れだけの重みを加へ舟に輕重なきやうにして競漕を試むる趣向ありと云ふ斯くてハルンス橋下を過ぐる頃はケンブリッヂのオックスフォールドを乗り越すの距離凡そ三四間ありしかども是れより二十分間ばかりを過ぎ二艘の小蒸氣船上に雙方の競漕者を載せ之れにケンブリッヂの勝と大書したる旗を立て歡呼しあがり歸り來れり此時岸上の喝采は水も沸かんとす勢ありし兩大學の競漕者は是れより倫敦に引き返へして宴會を開くの例にして此一勝一敗は世界到る處に電報され又此勝敗を前言して賭を爲す者も少あからず當日河上の見物人中にも爲めに幾百萬磅の金錢を損益したる者ある可し畢竟此競舟が世間に持て囃さるゝ所以は競舟其者の勝敗の外に賭を爲すの娛みあるが故にして爲めに

其熱心者を増せば競漕者も亦興味を増して益々盛況を見るものある可し世上の事は假令へ兒戯に類するも一般の人氣を引き立て、社會に興味を添ゆるもの多し餘まり大成人振りて社會を無味淡泊の者と爲すは文明國人の事に非ず居士の取らざる所なり

私有器物館

西洋諸國人は所藏の物を人に示して自他共に樂むの風あり例へは繪畫器物その他何くれとなく客室若くは食堂等に飾りて目を悦ばしむると同時に其傳來出處等に就き席上談話の材料を増し交際上に裨益する所少なからず又この所藏品多くしてストーブ棚若くはテーブル上に飾り盡くすと能はざれば之を私有器物館に陳列して來客の一覽に供するを例とす又この私有器物館を公有物中に寄附し或は學校寺院等に附屬する博物館に寄附して寄附者の名と共に其品物を幾多の看

客に供するの趣向もあり要するに一家の飾付けより公私有の博物館等に至るまで所藏の品物を人に示して自他共に見聞娛樂を與にするの趣あるは概して美風と稱して可ならん左れば西洋人にして我事情を知りたるものは日本の美術品所有者が深く之を庫底に藏めて天日を知りしめず光琳春正の巻繪をして空しく蛛の巢の束縛を受けしめ狩野土佐の名畫をして常に暗室の匣裏に蟄居せしむるは如何と問ふものあり蓋し往時日本にては財産權固からず稀代の美術品を人に示して或は權門の耳に入り無理にも所望せらるゝとなどあり爲めに名品を持ちあがら之を示さざるの趣もあらん或は日本人の習慣として所有物の有らん限りを示して奥底かく之を誇るが如き野卑に近しきと云ふの懸念もあり自然名品を庫中に埋むるの癖を成したるものあらんか斯くて名品を示さざれば世上美術工藝の士は廣く古人の筆意を

知り又その刀跡を尋ぬるに由なく美術發達上に於て便利を缺くと少なからず誠に惜む可きとあり今彼の大仕掛の美術博物館等に就ては一々爰に説明するを要せず私立小仕掛の者を記さんに居士のリヴァプール府に在りたる時同府にゼームス、ソックスンと云へる人あり或る宴席にて懇意と爲り一夕來りて晚餐を共にし旁々其美術館を一覽せよとの案内を受けたり氏は元と税關吏にして爾後その職を去り慰勞金を得て安樂に日を送るものあり英國にては役人の慰勞金頗る多く現に居士の知友なる或る醫者の如き曾て印度に赴きて軍醫たりしとありとて年に三百磅の慰勞金を受け其年四十少餘にて最早樂隱居の位他に立てり斯くて慰勞金に依りて餘生を安樂にするの望みあるが故に在職中に其職務を重んトて充分の勉強力を盡くすは使ふ者の爲めにも使はるゝ者の爲めにも共に兩便と云ふ可きのみソックスン氏

は幼年の頃より美術品を集むるの癖ありて家元と餘裕あるにも非ざれば貴重ある品を買ひ入るゝ程の力なく税關に奉職して些少の給料を取りたる其餘分を貯蓄し休日毎に他の若年輩は野外にシリックケツト蹴鞠等の遊戯を爲せども氏は獨り骨董店に赴きて終日ろの間を去らず所謂掘出し物ある時は之を買ふを常としたりしが斯くて次第に立身するに隨ひ次第に貴重品をも手に入れたるとされば其美術館中の品類は精粗混淆俗に所謂雅樂苦多物も多く雷の大鼓撥天狗の團扇虎の皮の積鼻輝など云へるやうの荒唐無稽ある奇品なきに非ず又氏の性質として此雅樂苦多品に勿体らしき理窟を附け又自から然りと信ずるものも多く先づ美術館中に入れば中央に三角形の椅子あり柏材を以て之を造り兎に角年經たる物なれども氏の説明に據れば是れはヘンリー第八世の椅子ありと云ふ何故にヘンリー第八世の椅子たる

を知り得たりや其出所如何と問へば氏は眞面目ある顔付きにて曾てオックスフォールドの大學に遊び或る油繪の中にヘンリー第八世が之れと同様の椅子に腰掛けたるを見れば必定是れはヘンリー第八世の椅子ありと鑑定したるなりと云へり又托鉢に似て底に小孔あるものを出し是れは印度よりの傳來なるが君は其何物なるやを知るかどの問ひに居士は其小孔に氣も附かず始めより托鉢なりと思ひ附きたればコハ托鉢とて佛者の人家を巡りて物を乞ふ器ならんと述べたるに氏は首を左右に振りて否々是れは印度の時計にして此中に水を盛り其水が小孔より滴り去る度合を見て時を計るものにして是れは印度に遊びたる商人より買受けたりと云ふ其他印形武器漆器陶器等の類極めて多く中にも居士の日本人たるを以て故らに恭しく示したる硯箱また日本製の茶碗等數品は是れ往年生麥にて島津家の行列を横切

り侍臣の爲めに斬り殺されたる英人某の遺品にして某の死後遺物は友人が取纏めて之を英國に送りたるをリヴァプール府にて競賣となりたる時氏の買受けたるものなりと云ふ又氏の妻は蠶者にして其娘は病身不具の部分ありとて來りて居士等に面するを爲さず蓋し蠶者と云ひ不具と云ひ氏の目より見るときは是れも骨董品の一なりとて殊更珍重するものならん食事了りて氏は美術館に入りヘンリー八世氣取りにて例の三角椅子に凭り其美術品蒐集に付き幼年より苦心したる來歴を長々と説き出したりしが其最後の一言に凡そ人間として一種營利外の樂みなき者は完全ある幸福を得ると能はず余の友人にハタ商賣を爲す者あり固より無學の人にして唯ハタ製造一方に盡力し今は數十萬磅の身代を有しリヴァプール府にて金持中に加へらるれども生來金を溜むるの外に格別是れと云ふ樂みなく今日も

ハタ明日もハタ談ずる所もハタにして食ふ所も亦ハタあり唯ハタくと一生を終るは扱も氣の毒あるものあり過日氏は余の許を尋ね余が此美術館中に在りて頻りに之を娛むを見て君は誠に幸福なる人か余も斯かる樂みを得たらんには一層幸福多かりしからんにハタの外其味を知らざるは誠に不幸者ありとて染みく歎息したるときり少にして税關の事務に鞅掌し俗中多少の風雅心を存して此美術品を集めたるが爲め之を集めたる當時を回想すれば一品一物余の爲めに愉快を添へざるを云々と説法したるは經歷上面白き談にして斯かる熱心なければ斯かる古器物を此くの如く集めて人に誇るの位地には達せざる可く其蒐集の盛んあるよりも其熱心の少より老に至るまで始終衰ゆるを見て感歎措く能はざりし

唱歌

リヴァプール府ポープ街に有名ある音樂會堂あり頗る廣大あるもの
 あるが堂内は四角形にして二層に分れ第二層一面は凡そ一間位づゝ
 に仕切りて一仕切毎に五六脚の椅子を置く之をボックスと稱し日本
 の芝居座にて柵と云ふが如し一ヶ月に一回若くは二回づゝ音樂會を
 催うし紳士淑女の出席を乞ひば府中有名の家族にては平常このボッ
 クス一ヶ所乃至二ヶ所位を買切り置き音樂會ある毎に家族を率ゐて
 之れに赴くを例とせり堂内別に一大室あり棕櫚芭蕉の類青々として
 目を悦ばしめ花卉盆栽の香氣は馥郁として鼻を衝く幕間には士女こ
 の室に出で來りて互に音樂の優劣等を評し或は休息或は運動知人相
 對して談笑するが故に恰も之を媒介として府中士女の交際を助くる
 の便利もあり金に不足なき人々の會場あれば堂内の美麗壯大なるは
 申すまでもなく音樂者も亦歐洲中の萃を抜き一席の唱歌奏樂に一千

圓乃至二千圓の報酬を與ふるの例も少なからず居士のリヴァプール
 府に在るや或る紳士の家に客たり其令夫人は音樂を好み平常二個の
 ボックスさへ買切り置く程あれば次回の音樂會の折は是非とも同伴
 す可しとて指折り數へて其日を待ちたるは他に非ず此日音樂會堂に
 て聽衆の前に現はるゝ者は歐洲中に有名なるマダムアルバニなれば
 ありアルバニは聲の美あるを以て夙に其評判高く今は年盛りの唱歌
 者にして大あるは廣き音樂堂に響き渡りて鶴の九阜に鳴くが如く細
 あるいは絶たんと欲して絶たず寒蛩の草露に咽ぶが如く細大自由喉の
 發達この極に至りたるは歐洲唱歌者中にて稀に見る所なりと云ふ斯
 かる有名なる唱歌者が今度此音樂會に來りて美聲を聽衆に達せんと
 するの評判新聞紙上に喧しければ其日限の次第に迫るに隨ひ寄れば
 障はれば噂どりくになりしこそ面白けれ

居士は斯かる機會を以て彼の國音樂會の模様を見。又有名ある唱歌者の聲を聽かんものと某紳士及び其夫人と共に之れに臨むの約を爲せり。凡そ彼の國の習慣として斯かる會堂に出席するには大抵燕尾服を着せざる可らず。燕尾服は黑白二色の外。他色を交へざるが爲め。頗る上品ありと云へど。其形は至て見苦し。昔し或る國王その嬖姫に向ひ。汝の所望は何事にてモ叶へ遣はす可しと仰せけるに。然らば今度宮中にて宴會を開く其折に紳士の着するフロックコートの前部を切り去らしめられたし。左あらんには居並ぶ紳士何れも異様の姿と爲りて。嘸かし可笑しからんとの答に國王直に令を傳へて。當夜參會の紳士連は皆其前を切り去らしめしが。忽ち一時の流行と爲り。次第に之を禮服と定むるに至りたる由斯くて英國などにては規則ばりたる場所に出づるに概ね此燕尾服を用ひ之をエブニングコートと稱して禮儀嚴格ある



初甲(フイタート)社分シイ本町東京



家族にては午後六七時頃より之を着して晚餐の席に着くを常とす左れば今音樂會に赴くに就き居士は此服を好まざれども止むを得ず之を着用して紳士夫婦と馬車に乗り込み豫ねて用意したる白手袋を箱めんどせしに夫人は低聲に之を押止め當府にては白手袋を用ゆるを以て殆んど流行外れと爲せば之を用ひ給はぬこそ宜けれと云ふに予居士は忽ち不審を起し歐洲大陸などにては燕尾服着用の時に白手袋を用ゆるの例ありと云へど當地にては何故之を用ひざるやと問ひたるに夫人は直に之に答へて左ればあり今を距ると十年前エザンバラ親王の當府に來遊し給ひたる時府民之を款待して盛大なる宴會を張りたりしが親王は燕尾服を着して白手袋を箱めず婦人などに對しては手袋なき手と以て握手する方却て其情の濃かなるを表して面白しとて一時交際社會の評判と爲り是れより當府にて燕尾服を着する紳

士が白手袋を用ひざるの習慣を成したりと云ふ彼れ是れする中馬車は音樂堂の門前に着き頓で二階のボックスに着坐して扱て堂内を見渡せば舞臺正面にマダムアルバニの席を置きて背後に二三百人の和唱者が居並びアルバニが一人にて肝要なる部分を歌ひば大勢同聲に之れに和す所謂コーラスある者は是れなり然るにアルバニの聲は此二三百人中に在りて分明に之を區別するを得るは實に堪能の者なりとて人々何れも感ト合ひたり當夜の唱歌は古昔希臘男女の愛情を寫したるものにして其趣頗る我淨瑠璃に類せり曲終りたる頃紳士夫婦と共に當夕音樂會首唱者の許に到りて細に其會計等を聞き質すに今夕アルバニの報酬金は百六十磅即ち一千圓ばかりに相當したりと云ふ一席の美聲價千金とは随分高直の者にして斯かる報酬あればこそ音樂家も其藝能を勵みて異常の進歩を見るものある可し今の文學と

云ひ音樂と云ひ技藝と云ひ其發達を助くるものは實に彼の金力なり世に幾十萬圓金を投トて一名畫を買ふ者あればこそ畫家も十年二十年の丹精を一畫に凝らすとを得るなれ又一部の歴史小説を著すに畢生の心血を注ぐが如き此著書一世の評判を得れば著者身を起す可き程の收入を得るが故あらん國富まざれば人文發達する能はずとは今日の實際談にして當夜音樂家の報酬金に徴するも尙其趣を感悟するを得べきあり

日本ボース

英國リヴァプール府にゼームスロードボースと云へる人あり今は日本の名譽領事を勤め一昨年中我天皇陛下の爲めに開きたる天長節祝宴の如き其盛儀實に英國社會を動かしたる程にして一事一物日本の爲めに好評判を得んとして夙夜その事に盡力するは世界廣しと雖と

も復たど得がたき人物あらん居士はリヴァプール滞在中氏の居館ス
トリートラムタワに客寓して其家族と親交し氏の起居言行等に就て
も充分熟知する所あり氏は英國中の名族にして祖先中には蘇格蘭駐
劄公使と爲りし者あり氏も現にリヴァプール商業會議所の副會長と
爲り家元と貧なりしには非ざれども氏が今日の位置財産を有したる
は全く其勤勉才識の致したる所なりと云ふ氏の起居言行中には英國
商人の模範として我日本人あどを警醒す可きもの少なからず今その
一斑を示さんに氏は羊毛仲買にして當府に廣大ある商館を構へ十數
人の番頭を使役して活潑に商業を營むが故に日々之を支配する用事
の多きと想ひ見る可し且つ此羊毛賣買には三ヶ月に一回づゝの競賣
市を開き凡そ一週間ばかりの間は夜も長眠を得ざる程の多忙にして
此際氏は自から市場に現はれ競賣臺上より大音聲を發して何印の羊

毛一ポント何程云々として競賣を試むる有様は營利を骨とし金儲を皮
とする人物なるが如くされども此活潑ある商戰場より凱旋して日暮
家に歸る時は氏の生活は一變し最早商人に非ざるなり氏の居館はス
トリートラムタワと稱し府中有名あるプリンセスロードに臨みて巍
然たる王侯の第宅に似たり館内に入りて一步すれば日本の古陶器古
漆器等順席を揃へて陳列するあり令閨は靜敏優美にして能く其家事
を整理し一男三女氣品高く家庭教育行き届くが爲め客に對して愛敬
を失はず一家團樂春風滿堂の趣あり氏は商賣戰場より此春風滿堂の
中に歸り來りて夫妻子女と快く相娛み偶々日本人などの過訪するあ
れば之を晚餐席に招待して得意の美術談を談ずる等多忙の中に自か
ら一種の餘裕を存するは誠に感服す可きなり氏は又日本工藝に關し
て著述する所少なからず日本印章考及びケラミックアートの如き又

本年印行したる日本陶器考の如き其最ある者にして殊に此陶器考中には附言として日本の家居飲食習慣風俗等を記入し日本の爲めに其美を發揚すると少あからず居士一日氏に向ひ君が日本工藝品を愛して蒐集の廣きは感服されども尙一層感服する所は君が一方お活潑なる商人と爲り一方に洒落なる風雅人と爲り一人にして二様の生涯あると是れなり凡そ人生俗事に當れば文雅風流を語るとを忘れ文雅風流に耽る時は風骨稜々たる仙人と爲るを常とすれども君は之を兼有して一方の奪ふ所と爲らざるに在り云々と述べたるに氏は即ち之れに答へて余は千八百六十七年巴里大博覽會に於て日本工藝品を一覽し其高尚優美なるを愛して之を蒐集せんとするの念を起し之を集むると愈々多くして愈々その妙味を覺ゆ此品類の中に在れば終日自から倦むとを知らず日本古今の工藝品にして遠く海外に傳來する者は

何れも有名ある技術家が王侯貴人の求めに應つて心血を注ぎたるものたれば精神器物中に活現して之れと相對する時は稀代の工藝家と對坐して共に談ずるの想あり是に於て斯かる名品を製作したる日本國の人を知り其歴史習慣風俗等と聞き糺さんとするの念を起し其頃オックスフォールド邊に日本の書生ありと聞き書を送りて之を招きたるとさへあり然るに其後岩倉公が歐米廻覽大使として當地を過きられたるを以て親しく公と會見して其意衷を盡すとを得。是れより日本國を敬愛するの念は一層深さを加へたり斯くて日本工藝品を友として家居常に相對すれば商業上の勤勉疲勞も忽ち何れへか消失して精神ますます爽快と爲り戸内戶外生活を二分して苦樂相償ふの趣あり云々と述べたり氏は日本の歴史に通つて最も其名分を重んず器物を美術館中に飾るにも王室に關係ある物は殊に之を上席に置き徳川氏等

に關係ある物は之を其末座に置きて些末の處にも勤王の意を失はざるが如き氏の尋常美術家に異ある所なり且つ氏の美術品を集めたるは金方の外に其熱心與りて大に力あり夫れに就き一奇談あり氏曾て巴里博覽會にて竹取物語二巻を買ひたるとあり然るに是れは三巻物にして其中巻を脱したれば如何にもして之を全うせんと希望したりしに一日リヴァプール府の骨董商氏の日本品を愛するを知り雅樂苦多道具を掻き集めて商館に來り其一覽を請ひたれども商用繁多の折柄なれば殆んど見向きも爲さざりしが不斗その風呂敷の端よりして悉物様の者あるを見たり氏はキツと目を附けて取る手遅しと披き見るに豫ねて得たしと念たる竹取物語の中巻なれば其喜悅云ふ可らず直に之を買取りて竹取物語三巻を完備せしが是れ偏に美術神の擁護ありとて氏は常に之を人に語ると云ふ又氏の言に日本美術品中に

は自から一種の面白味あり例へば其繪畫には何れも彼の寓意ありて雪折れ竹は節操と表し鴛鴦は伉儷の睦トさを表し鯉の漉登りは少壯立身の趣を表し四君子は其貞操を表する等寄托の妙他に比類あしと云ふ可し云々氏の日本最負あると概ね此の如くあれば英國人あとの中には氏を稱してシヤパニスボーヌと云へり蓋し故ゴルドン將軍を稱してチャイニスゴルドンと云ふと同例なる可し日本ボーヌ支那ゴルドン英國中にて一幅對として最も適當ある可しか氏の言行舉動に就ては此外記す可きもの多けれども今煩冗を恐れて之を贅せず

府知事接客會

西洋人は居家處世金を使ふと巧みにして外部より見れば用度極めて大なるが如くかれども内部に立入りて様子を見れば經濟上に抜目なくして實際無駄錢を使ふと甚だ少あし今中以上の家族にては學校に

子供を送迎し或は夫婦宴會に若くは芝居音樂會等に赴くに概ね馬車を用ゆれども自宅に馬車別當を抱へ置きて之を用ゆるには非ず多くは貸馬車屋と特約して揃ひの裝束を着けたる御者器具立派に整ひたる馬車を其日限りに雇ふものあれば外觀の立派ある割合に其費用は多からず彼の中以上の家族に取りては誠に手輕きものある可し又その家屋内に入れば椅子、テーブル、書棚、油繪等裝飾人目を驚かし贅澤極まるが如くなれども此等の品は子孫末代に傳はるものなれば贅澤に似て贅澤に非ず要するに彼の西洋人は目に見えて其錢相應に價あるものに費し酒色遊興消えて跡なきものに對して容易に手を出さざるは錢を使ふに巧みある者と云ふ可し左れば西洋諸國にては宴を張りて人を招き又招がれ酒池肉林非常の贅澤を爲すが如く思ふ者あり又斯かる贅澤を爲さざれば交際を爲すと能はざるが如く思ふ者あれど

も其實際は左に非ず勿論大宴會に賓客を招きて食前方丈の饗應を爲せば其費用は莫大なれども是等は異常の金満家が金に有り餘りての遊興にして其他日常の交際は至りて質素なるものゝ如し今英國各府知事の事を述べんに同國知事は俗務鞅掌其日を送るものに非ず或は慈善會と云ひ或は美術會と云ひ或は送迎會と云ひ種々様々の席に出で、常に其上坐を占め全府の交際を料理して人心を融和するの職に當れり任期一箇年にして府民の公撰に係るが故に知事たる者は府中に於て榮譽の盛んなると勿論なれども交際の中心たるを以て出費は固より少からず殊に倫敦府知事などは在職中の物入莫大あるが故に金満家あらざれば堪ゆ可らず又一度府知事と爲れば男爵に封せらるゝの例なれば金ありて名譽と得んとする人が名譽税を拂ふを覺悟して其職に任ずるものありと云ふ斯くて知事が交際上に金を費すと

大なれども質素は彼の國一般の風儀。金さくして濟む交際に濫りに金を費すが如きは固より禁物として視る可きあり例へば知事の接客會(レセプション)とて毎月一回府中の士女に面會する爲め親睦會様の集會を催うすとあり居士はリヴァプール府に滞在中同府知事オーションヨット氏の案内を得て其接客會に赴きたりしが此接客會は一昨年十一月リヴァプール府名譽領事ボース氏が我々天皇陛下の天長節大祝宴を開きたる後三日目の事にして居士はボース氏夫婦と共に此會に赴きたるに席中多くは彼の天長節宴に招かれたる人々にして玄關先さより知人に遇ひ或は握手し黙禮して府廳の第三階目に至りたるに知事は井戸繩大の金鎖を以て胸に其印綬を繋ぎボース氏夫婦並に居士を迎へて款待の意を表したり知事オーションヨット氏に一女あり其年二十一歳。恰も一週間前に某紳士と結婚して不日歡月行を印度地方に試み

んとする由あれば當日は其送別を兼ねて來會したる者も多く令嬢は丈高く顔貌豐厚にして最も交際術に長じ其愛嬌溢るゝばかり居士の外國人あるを以て殊に慣れしく言葉を掛けたり凡そ彼の國婦人の習ひとして男子に對して嚴格倨傲。男子を婦人に紹介するには假令へ如何ある貴紳士にても男子の方より進み出で女子は椅子に腰掛けながら之れと談話するとを得る等總べて其自尊を養成するの趣あれば婦人が見ず知らずの男子に向ひ殊に慣れしく近寄りて親切に挨拶するが如き非常の待遇と云はざるを得ず令嬢の案内に連れ其中央會堂に入れば一隅にヒヤノを奏するものあり淑女紳士は椅子に倚り或は相伴ふて立談し一堂に府中有名の人々を會して一時に相見るとを得せしむれば舊交を温め新知を廣め交際上の便利少きからず左れども此會堂には勿論飲食物を置かず廣き會堂を士女に貸し府知事が其注

人と爲りて談話交情を交換せしむるに止まり其趣は青物市に市人が會して其青物類を交換すると一般之を稱して交際の市場とも申す可く一文錢を費さずして滿府の人に非常の便利と愉快とを與ふるは頗る妙ありと云ふ可きあり我日本國などにては人を集むるに飲食物を以てし何人が宴會を開きても茲に飲食物なきか席に陪する紅裙かければ自から其興味を感せず質素無錢にして無限交際上の快樂を買ふの趣あきは交際の妙を解する者と云ふ可らず日本の如き貧國にては金を用ゆる交際よりも寧ろ無錢の交際法を開きて成る可く多種類の人を會し社會の人情を相通トて悠々和樂の境を廣むると最も肝要の事ある可し而して此交際の中央府は矢張り之を府知事に歸し其媒介に由りて以て目的を達するの外ある可らず居士は西洋諸國にて錢を用ゆる交際法には餘り感服せざれども錢の入らざる交際即ち府知事

接客會の如きものを我國に導くの端緒を得んとを偏に希望に堪へざるあり

折 論

外國に到りて其事情を探らんとすれば多くの外國人と交際せざる可らず扱て交際には金を要して日本人の力に及ぶ可らず云々の苦情は毎度居士の耳にする所あれども居士は此口實の甚だ薄弱あるを感ずるあり今外國人と交際するに金の力を以てせんとせば固より際限あることなれども交際には種々の途あり金一方と以て交際の秘極とは云ひ難し彼の外國人中には奇を好むと小兒の如く共に交際して面白しと思へば我れより金を費すを待たず彼れより金を費して我れと交際せんとする者多し即ち彼れ外國人が我日本人と交際するは好奇の一點に在るが故に我れ之れと交はらんするには其好奇心を満足するの

心掛なかる可らず然るに日本人にて身分ある者あは兎角重もしく構へて言ひ度き事も思ふ儘に言はざるを常とすれども斯くては何程の金を費すも交際に得る所なかる可し西洋人と交際するの秘極は所謂當りて碎けるの主義にて何事も快濁に打つて出で談笑怡々不快の顔色を示す可らず身に覺えある藝能は歌舞なり音楽なり所望に任せて颯々ど之を演ト聊か遠慮す可らず勿論その場所くにて斟酌謹慎せざる可らざれども先づ氣輕き方に立廻りて面白き人と爲るとを勉めざる可らず彼れ西洋人等が日本人に交はらんとするは大家なり偉人なりとて恭しく交はらんとするに非ず顔色異りたる異郷の人。之れと語らば定めて面白からんと云ふの心即ち我れと交はらんとするの心あり左れば彼の國人と交遊するの際。一種の遊藝耳目を喜ばすものあれば時に之を弄んで所謂面白き人と爲るの便宜と爲るとあ

れども居士の如きは本來武骨無藝者にして此點より云へば極めて不便勝ちありしが爰に瑣末の手遊びにして不斗彼の國人の大喝采を得たるものあるは他に非ず紙にて折鶴を作ると即ち是れあり居士の英國リヴァプール府に在るや名譽領事ボース氏が我天皇陛下の天長節を祝せんとして大盛宴と開きたるとあり來客五六百の大數あれば數日前より準備に掛りて主人夫婦の多忙あるは言を待たず當時居士は客分として其家に止まりたれば鶏鳴狗吠の流ならねど何か一つ手柄を立て、主人の厚意に酬ひんと思ふ折柄主人は名にし逢ふ日本好きにて夜に入らば屋内屋外に日本の釣提灯を下げんと云ふ居士は乃ち一工風を案し今幾十個の折鶴を作りて之を提灯の底に吊したらば一層の風致と増すとあらんと豫ねて携へたる日本紙を以て半日間に折鶴凡そ七八十を作り主人夫婦にも語らずして竊に其不意に出でんとし扱て

宴會日の暮近くなりたる頃紙紐を以て提灯に此折鶴を吊したるに頓て火を點するや否。其提灯の見事あると共に底より下がりたる折鶴が風鈴の如くピラ／＼として清淨都雅得も言はれぬ趣あり來客之を見何物あらんと説明を求め又年若き婦人等は珍しさの餘り取りて胸間の飾り物と爲すやと評判頗る高き爲め居士は鶴作りの司と稱せられ當夜喝采を得たるのみならず此後府中にて宴會ある毎に提灯に折鶴を下げんとてワザ／＼居士の許に來りて其折方を傳習する令嬢亦どもあり鶴を作る日本人と云へば府中誰れ知らぬ者なく工場商館を一覽せんとすれば例の日本人かどて喜んで案内する者多ければ交際上便利を得ると少あからず吾ながら深く此折鶴の功能を感トたるとあり數枚の日本紙價一錢にも當らざる者にて作りたる折鶴の匣にて交際上に此所獲あるを見れば西洋人との交際に大金を要す云々の口

實は居士の餘り感服せざる所あり斯くて居士の英國を去りて將に日本に歸らんとするやボース夫人より倫敦に達したる送別狀中に折鶴一雙を封ト越したれば居士は返書中御親切に御寄贈被下候紙鶴に親して日出の郷に飛び歸り申す可く候云々の文句を挿みたるに此文句大にボース氏夫婦の賞讃を博せり即ち此折鶴こそ居士が英國滯留中の一紀念あれば居士の家の定紋は竹に笠あれども是れより紋所を折鶴と爲し歸朝の後羽織その他に此紋を用ひたり云々と英國友人に言ひ送りたるに返信中居士の交誼に厚きを賞して喜悅を表したるもの數通を得たり西洋人に接しては斯かる子供らしき事柄も尙は其交際の媒介たるべければ餘り重も／＼しく大人を氣取るは決して交際の妙に非ず氣軽く手軽く淡泊眞率を旨とすると彼の國人と交際するの一秘術ありと居士は自から感ずる所ありたるを以て折鶴の由來を記

すると爾り

三百五十六

英國生計問答

居士英國滯在中同國生計の度を調査して之を日本に比較せんとし同國人に就き質問を試みて其答を得る毎に之を筆記したるものあり勿論生計は階級に依り同階級の中にてても貧富同トからざるに依りて變するが故に一概に談ずると能はざれども今同國上中下三階級の中に就き殊に其中等を撰び中等の中にてても中の上と云はんよりも寧ろ中の下と云へる家族を標準として其生計の一斑を取調べたるものあれば讀者此次第を領し日本。中。の。下。の。生。計。と。比。較。せ。は。日。英。社。會。相。違。の。點。を。知。る。に。於。て。多。少。の。參。考。た。る。可。し。と。信。ず。

英國。中。の。下。の。家。族。の。歳。入。は。如。何。

六百圓より千二百圓位までにして平均九百圓と見て可あらん今九百圓の歳入あれば之れに對して所得税を課せらる其所得税は時に

二百五十七

依りて變更あきを得ず例へば平時は軽くして戦争其他國用多端の場合には更に其重きを加ふるが如き往々その例あるとなり今日の處にて此所得税は六圓に付き十五錢の割合にして所得税徴收官は何種の職業者に論なく其収入九百圓に達す可しと認むるときは何時にても其帳簿を検査するを得。又是等の人に對し其所得の記録を要求するを得べし斯くて其所得高果して九百圓に上る時は直に所得税を拂はしめ又妻にして若干の所得あれば之を其夫の収入と見做して夫婦の總所得に課税するを例とす又九百圓より二千四百圓に至る迄の歳入は七百二十圓までは其課税を免す例へば今九百圓の所得ある者は此内より七百二十圓を除き去り残りの百八十圓に對して四十分の一(六圓に就き十五錢)を拂はしむ可く又假りに千八百圓の歳入ありとすれば此中より矢張り七百二十圓を引去り

残りの千八十圓に對して四十分の一を課するの定めあり但し其收入二千四百圓を超ゆる時は七百二十圓までを除き其他總收入に通トて四十分の一を課する者とす

家賃凡そ何程ありや

家賃は家税とも一年百五十圓位にして之を拂ふの期限は毎週とし毎月とし時としては毎三ヶ月とし約束次第にて變ずるものあり家賃は英國生計中最も重要ある部分を占むる者にして家賃を毎週拂はんとすれば借家人は其家を借る一週間前に之を家主に通知し又毎月拂はんとすれば一ヶ月以前より通知するを例とす今一家を借る時は借家人は其造作に就き適當の注意を爲し硝子窓の修覆等は總べて之を引受けざる可らず但し天井壁その他家の外部に屬するものは家主の修繕するものとす又英國の實際に於て家主と地主と

は大抵其人を異にし借家人は家を家主に借り家主は土地を地主に借る而して其土地借用の期限は或は七十五年或は九十九年或は九百九十年と云ふが如き數を通常とす

一家五口として一週間の飲食費は何程ありや

例へば今一家五口を夫婦と外に十二乃至十歳の女子二人九歳の男子一人と見れば酒並に高價の菓子菓物等を除き通常の飲食費一週間凡そ六圓位ある可し

一年中に衣服を換ふると幾回位にして其費用は如何

是れも一家五口として通常その上衣を換ふると年に三回下着は毎三年に一回位あるべけれども是れは其人に因りて同トからず又その費用は夫妻とも年に凡そ六十圓づゝ子供は各々二十四圓位なる可し

友人を晚餐若くは茶席に招待するの多少如何

婚姻。出生。死去若くは耶蘇祭日等を除くの外茶席に友人を招待すると甚だ稀あり尤も結婚の當座には屢々其友人を招きて茶會若くは夜食を共にするとあれども一旦出産あざれば其後は人を招くと稀あり又人を招くにも親戚若くは親友に止まり廣く交際仲間を招待するが如きは極めて稀あり

交際上費用を要するものは何事ありや

必需品より離れて殊に費用を要するものは酒類なり即ちビール葡萄酒酒精等是れあり飲酒の習慣は總べての階級に跨がれども殊に下等社會即ち勞役社會に甚しく困窮犯罪等之れに原因するもの多し勿論禁酒會等の組織ありて幾分か此惡習を矯正すれども全國飲酒の分量は實に莫大ある者にして酒類製造税は英國政府歳入の大

部分に居れり今中の下の家族にては夫妻にて一年三十圓位の酒代を費すべく又父母が子に向て酒を飲むとを禁ずるは一般の習なるが如し

寺院に参詣する家族は病院救貧院養老院等其他慈善事業の爲めに多少の施與金を出さざるを得ず此等の事業は宣教師が主と爲り寺院を中心として金を集るを常とす耶蘇祭日前後パンタマイント稱して各劇場に滑稽狂言を行ふとあり中の下の家族にても此際芝居見物に出掛くる者あれども其他の場合には極めて稀あり

下男下女の給料は如何

下女年十六歳位の者を雇ひ置くには一週間殆んど三圓を費し其中五十錢は給金と爲り二圓五十錢は食料と爲るへし一家五口なれば大抵下女一人とし此下女が下着の洗濯を受け持つ時は隨て其給金

を増すを例とす

中等家族にて馬車を所有する者ありや

否馬車を所有あるは富豪家のみなり中等家族にては祭日などに一日馬車を借り受けて野外に遊乗することあるのみ

夫妻其財産を別にするや如何なる費用は妻の負擔とある可きや

婦人にして財産を所有する時は其夫の干渉を受くるとさく國法に於ても思ふ儘に之を使用し若くは之を其所愛に遺すとを得せしむ通常一家の經濟法は毎週若くは毎月妻その夫より金を受け取り以て生計諸雜費を支拂ひ夫は自から小遣錢を所有して煙草マツヤ新聞紙その他の必需品を買ふを例とす又生命保險を爲すに掛金は夫妻雙方支拂の責任あり云々の約束を爲すとありと云ふ

子女結婚の際兩親の給與物は如何

兩親は子女結婚に際して家財道具中最も必要ある者と與ふるあり或は若干金を與ふるあり或は一物を與へざるあり其習慣一ならず之を要するに兩親の貧富及び其愛情の厚薄に因りて各異あれども通常新夫の兩親が家屋一切を辨すれば新婦の兩親は其婚姻諸雜費を負擔する者多し蘭英の下等即ち勞役社會にては婚姻を視ると重からざれども愛蘭の農家にては之を生涯の大禮とし同國人が平常勞役蓄財するは子女結婚の時に臨み成る可く多くの財産を譲らんとするが爲めなり左れば其新夫婦に對して兩親より讓與す可き物に就き時として苦情を生ト或は破談に及ぶとあり然るに英蘭にては上等社會にて時に此等の談を聞くとわれども要するに愛蘭の如く甚だしきに至らず又結婚前にては其子が自勞儲金すれば兩親は之を銀行に預け或は之れに預くるの便利を與へ又兒童に向ては其

學校に關係ある一錢儲蓄銀行に金を預くるとを勧め斯くて次第に儲蓄して婚姻後兩親の厄介を受けず自から一家を成さしむる者も少なからず

瓦斯の費用は如何

一家に用ゆるランプ及び庖厨用瓦斯は多くは私立瓦斯會社の供給に係れり今借家人が瓦斯供給を會社に乞ふと同時に金四圓五十錢を預くるを例とす是れは式金として預け置くものにして瓦斯を用ゆると五年乃至十年に亘れば會社は之を預主に返却す可し瓦斯料は三ヶ月間の消費額に比例して定め一千立方尺に付き凡そ八十錢(日本瓦斯料は一千立方尺に付き二圓五十錢内外にして英國に三倍せり)あり斯くて毎家の瓦斯消費額は三ヶ月間に九圓乃至十二圓位を通常とす

地方費は如何

地方費は貧民費、水道費、警察費、衛生費、教育費、博物館、書籍館及び公園費を主要とす此諸費は大抵一年分を潤めて支拂ふものにして其總額凡そ家賃の三分の一に相當す左れば此費用の負擔額は大抵その借家賃に比例して定まり又自分所有の家屋に住する時は一層之を増加する者とす

其他費用の重も立ちたるものは如何

中の下の家族にては薪炭費も亦支出の一要目なり即ち一年の薪炭費は二十四圓乃至三十圓に上る可し此外絨段の敷替へ窓戸の修繕器物の調達等は時に依りて異なれば何程と算用する能はず又一年中凡そ二週間位は家族を引連れて田舎若くは海濱に到り休息保養するを例とし一家五口あれば此保養料は凡そ六十圓に下らざる可

く又女子二人男子一人學校に入れば其月謝等一年に凡そ二十一圓前後を要す可し

教育法は如何

英國の法律に依れば子女年五歳に至れば是非とも學校に入り第四級を卒る迄は退學すると能はざるものあり勿論第四級を過ぐれば退學して職業に就かしむるを得れども其兩親の心得次第最高級即ち第七級に至るまで在學せしむる者もあり子女引續きて學校に登り且つ相當の學力ある者は此一級より七級に至るに凡そ八年間を要し五歳にして入學すれば十三歳にして全科を卒業するを得るあり

各都府に學務局と云ふものあり學務委員十三人より成り立ち其中には婦人一二名を交ゆるとあり此委員は三年一回府會議員の撰舉

同様に撰舉せられ其撰舉の際には各教派の團體たいたい皆な力を用ゆるが故に此委員は大抵各教派に屬する人口の比例ひれいに依り盛大なる教派は多くの委員を出すの趣あり又この學務局の事務は第一五歳以上の子女にして入學せざる者を視察しきさうする事。學校入用の場所しきうに之を設立する事。或る學校に適當の教師を備ふるや如何を檢査する事。又新に學校を設くるに其建築費用等を調査する事。等あり然るに茲に府立公立の學校に非ずして純然たる私立に屬するものあり此等の學校は大抵各宗派の補助を得て成り立つものなれば其學科中には各自宗教の主義を交ゆるを常とす斯かる學校は尋常學校にて或は宗教主義を説くと能はざるが爲め其教義を弘めんとして起るものにして彼の學務局も此等の學校に干涉すると能はず今學務局の役員は市役所の帳簿に依りて小兒出生の年月を調べ又その小兒の移轉

を調べ其子女學齡に達すれば兩親に向て其就學を督促するの職權しやくけんあり又學校の月謝及び其他の費用は子女の年齢に依り又その學校の位地に依り一人に付き一週間五錢より十五錢に至る但し父母貧困にして子女の入學費を拂ふと能はざれば貧民監督役ひんみんかんとくやくに出願して其支給を仰ぐものとす

學校の私立と公立とに論なく在學生徒の月謝金を以て教師の給料その他諸雜費を償ふと能はざれば或は政府の補助を請ひ或は宗教その他團體の庇護ひごを求めて事を辨せざるを得ず政府の補助金は一年一回政府より派出する視學官の試験に及第したる生徒の員數に割り合せ今千人の及第生徒あれば年に千磅の補助を與ふるを例とす即ち一人に付き一磅の割合に當れり又彼の學務局は學校教科書を檢定し又校內各種の訴件そけんを聽き教授の方法宜きを得るや給料の

配當度に適するや如何を視察し殊に政府補助金を使用するに其正當の目的を誤まらざるとを期す

學校の書籍及び用紙は校費を以て生徒に支給するを例とすれども高等學校若くは中學校にては總べて生徒の自辨とす

教師の給料は區々なれども生徒多數の學校にては校長の年給千二百圓又婦人校長なれば七百二十圓位なり助教授は一年四百八十圓より六百圓位に至り男女見習教師は四ヶ年間を期限として其給料は左の如し

男子一年目百圓。二年目百二十圓。三年目百四十圓。四年目百五十六圓
女子一年目六十六圓。二年目八十四圓。三年目九十六圓。四年目百二十五圓

尋常學校より大學に至る學校の種類如何

第一は小學校にして其教育費は一週間二十二錢五厘を踰えざるものなり第二は公立學校にして大學豫備校となり中等以上の生徒のみ入學するものなり第三は中學校にして之を集合して大學と稱す大學は其卒業生に向て學位を與ふるの特權あるものあり
オックスフォールド大學は一千年前アルフレット大王の創立に係り好學の富豪家追々土地其他の財産を寄附したるが爲め學資頗る富裕なりマンチェスターのオーウェン中學校リヴァプールのユニヴァーシティー中學校は併せてヴヰクトリア大學を組織せり

舞踏は如何

英國中等以上の若婦人は教育の一部分として舞踏を習ふ者もあればとも舞踏教師を家内に招きて之を傳習するが如きは通常見受けざる所あり又中の下の家族にては婦人の舞踏に長ずるを以て必要の

事と見做す者亦く物堅き家族にては子女に向て之を奨励する者ありし但し或る都府にては若男若女が舞踏練習會を開きて一週間に一二夜會合研究する者あれども斯かる會場に赴きて舞踏を研究する者は商館書記若くは其賣子などに過ぎず

中等社會の婦人は一般に裁縫術を知るや

然り唯上等社會にては所謂針仕事ニイトセウツレクを爲す者少なく其技術は重きに裝飾物手遊道具等を作るに止まれり

中の下ちのしたの家族にて夫の衣服綻びたる時妻これを繕ふや若くは裁縫師に托するや

中等社會の家族にてはボタンを付け若くは衣服の綻びを繕ふ等の事を以て大抵下婢頭かひかしらに命ずるを例とす殊に子供の多き家内にては縫物の爲め特別に下婢を置くものもあり妻自から衣服の綻びを繕

ふが如きは極めて稀あり又中の下ちのしたの家族にては裁縫は妻の職務とし其女子成長すれば女子と母親と共に之を取扱ふものあり斯かる家族にては裁縫器械即ちミシンを備へ置きて裁縫師の手を煩はすと少きし

商店の女賣子は如何

大抵中の下以下の女子にして職工の娘殊に多し給料は技量わざりかに従ひ一週間に二圓四十錢より六圓三十錢位までとし大商館にては賣子の爲めに食堂を設け置くにあり賣子は其給料を以て大抵衣服裝飾に費し或る家族にては其娘が賣子として得たる給料を隨意たがひに使用せしむれども家計貧窮ある者は其給料の幾分を得て之を補ふの場合多し

職工勞役社會の生活費は如何

職工勞役者の賃銀は其技術に依りて一から今その大要を記さん
に一週間の勞役時間を凡そ五十四時間として其勞役賃銀は左の如
し

大工一時間二十錢。煉瓦職人同二十錢。左官同二十錢。ペンキ塗職人同
十七錢五厘。製帆職人同十六錢五厘。

職人の家賃は如何

人口稠密の都府にては一家内に數家族分住するが故に其家賃割合
に低く一家二室にて毎週九十錢より一圓五十錢位とす又人口稠密
からざる都府は一家四室即ち寢室二箇庖厨及び物置より成り立ち
客間ありて一週間一圓九十五錢位の家賃あり

食物費は如何

職工の家族にて其妻家政に巧みなれば食物の爲めに費す所毎週四圓

五十錢に過ぎず斯かる家族にて通常の食物と爲るものは牛肉并に
豚肉なり英國の職工は良牛肉良ビールを備ふるを以て人生最大の
必要と爲し此一段に至りては他國に其比例を見ず所謂英國人の食
倒れとは此事なる可し

衣服は如何

職工は常服の外に或は政治上の集會に赴き或は寺院に參詣するが
爲め別に一揃えの衣服を備ふ又妻が節儉家なれば毎週一錢銀行に
若干錢を預けて其子の衣服料と爲すとあり

職工間には共濟の道ありや

職工は其職業に依りて一種の俱樂部に屬せざる者あり即ち職工同
盟是れなり此同盟は職工の病氣災難等に際し之を救濟するの仕組
あり又宗教上より友誼會などを稱するものを組織し其會員たる者は

不時の災難に際して救済を得るの趣向もありと云ふ

中等社會の人は毎月若くは毎年寺院に若干の錢財を寄附するや

英國人は宗教信仰の自由を有するが故に是非とも或る寺院に寄附せざる可らざるの義務なく寺院に赴かざる者は隨て寄附金を拂ふとなし左れども通常一家族にして寺院に若干の寄附を爲さざるものなく英國中に勢力ある英蘭教派にては其寺院僧侶の給料を拂ひ又他の貧窮寺院を助援し或は説教助師を支給する等の爲め土地其他慈善家の寄附物より収入する所を用ひ或は別に信徒の寄附を仰ぐとあり又或る寺院にては其説教場の椅子凡そ三分の二を貸し付け其他三分の一丈けを自由の使用に供するものあり其席料は場所によりて異あれども一年一席に付き三圓より六圓に至り平均四圓五十錢前後なれば一寺院四百席と見て千八百圓位の収入ある可し

此席料は大抵半年毎に取り立て之を以て僧侶の給料を拂ふとありと云ふ

結婚の際寺院に拂ふ可き費用は如何

結婚は日曜日に行ふを例とし寺院は男女何れかの通常禮拜する處を撰む僧侶へは結婚書讀上げ料として七十五錢を拂ひ又結婚登記紙並に印紙料として六圓八十錢を拂ふものとす

葬式費用は如何

葬式は万事埋葬人に委任す此埋葬人は棺を調達し棺馬車を雇ひ其他葬式に關する一切の事を取扱ふものとす相應の埋葬費は四十八圓にして其中二十四圓は棺の調製料と爲る可し墓地の價は其他位に依りて異なれども四個の死体を葬る可き程の場處は殆んど二十五圓を要す又埋葬の際は僧侶に向て金一圓を與ふ石碑は相應の者

一箇に付き凡そ四十圓を要し墓地掃除料并に香花料等は死去第一
年目には凡そ三圓其後は年に凡そ七十五錢を要するものとす是れは
中等の費用されども是れより以下費用を減すれば其半減若くは其
以下にて事を辨ずるを得べし

英國風俗鏡終

明治廿三年十二月一日印刷
同 年十二月廿五日出版

版

録

著 者

高 橋 義 雄

京橋區築地三丁目九番地

發 行 者

大 倉 保 五 郎

日本橋區通查丁目十八番地

印 刷 者

杉 原 辨 治 郎

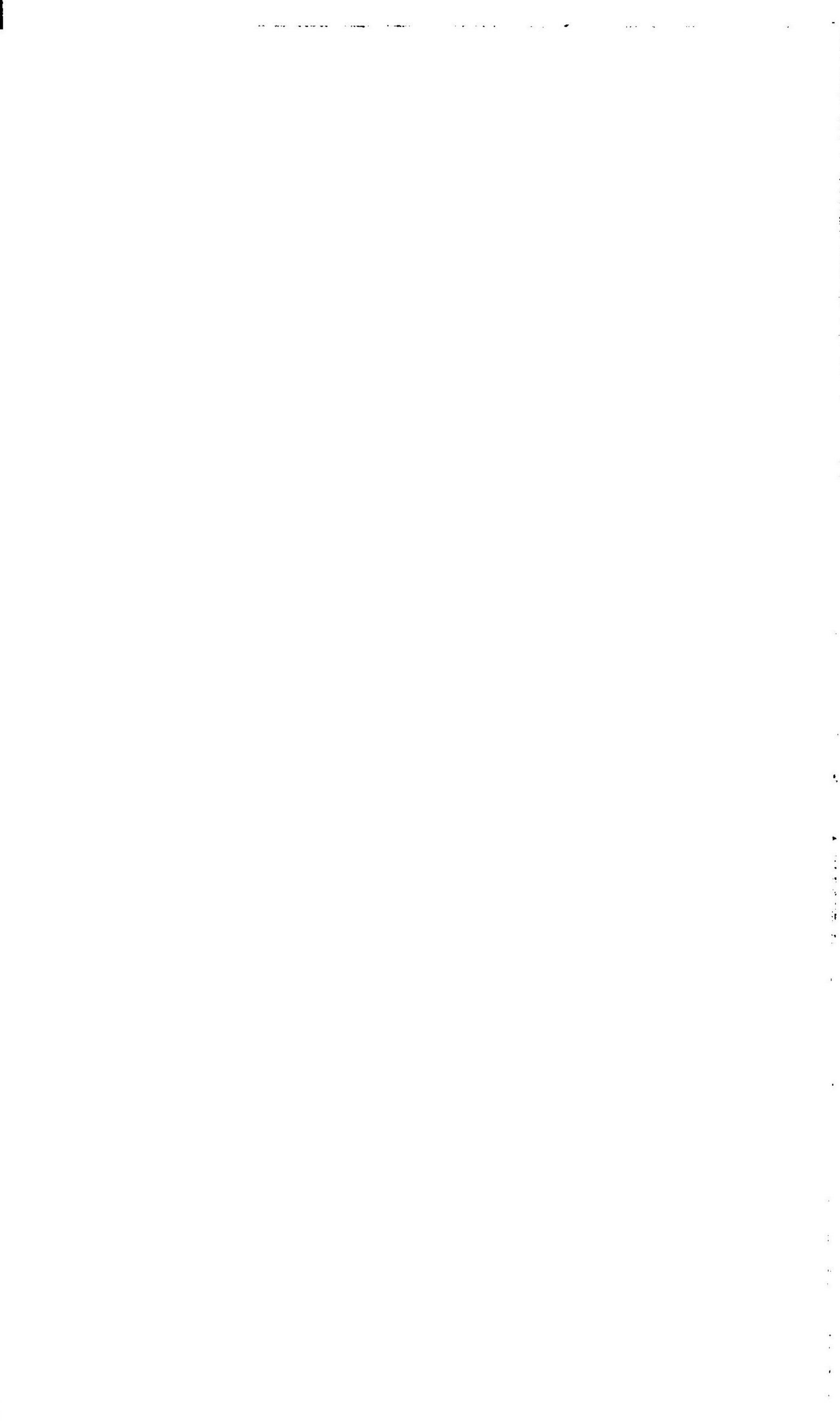
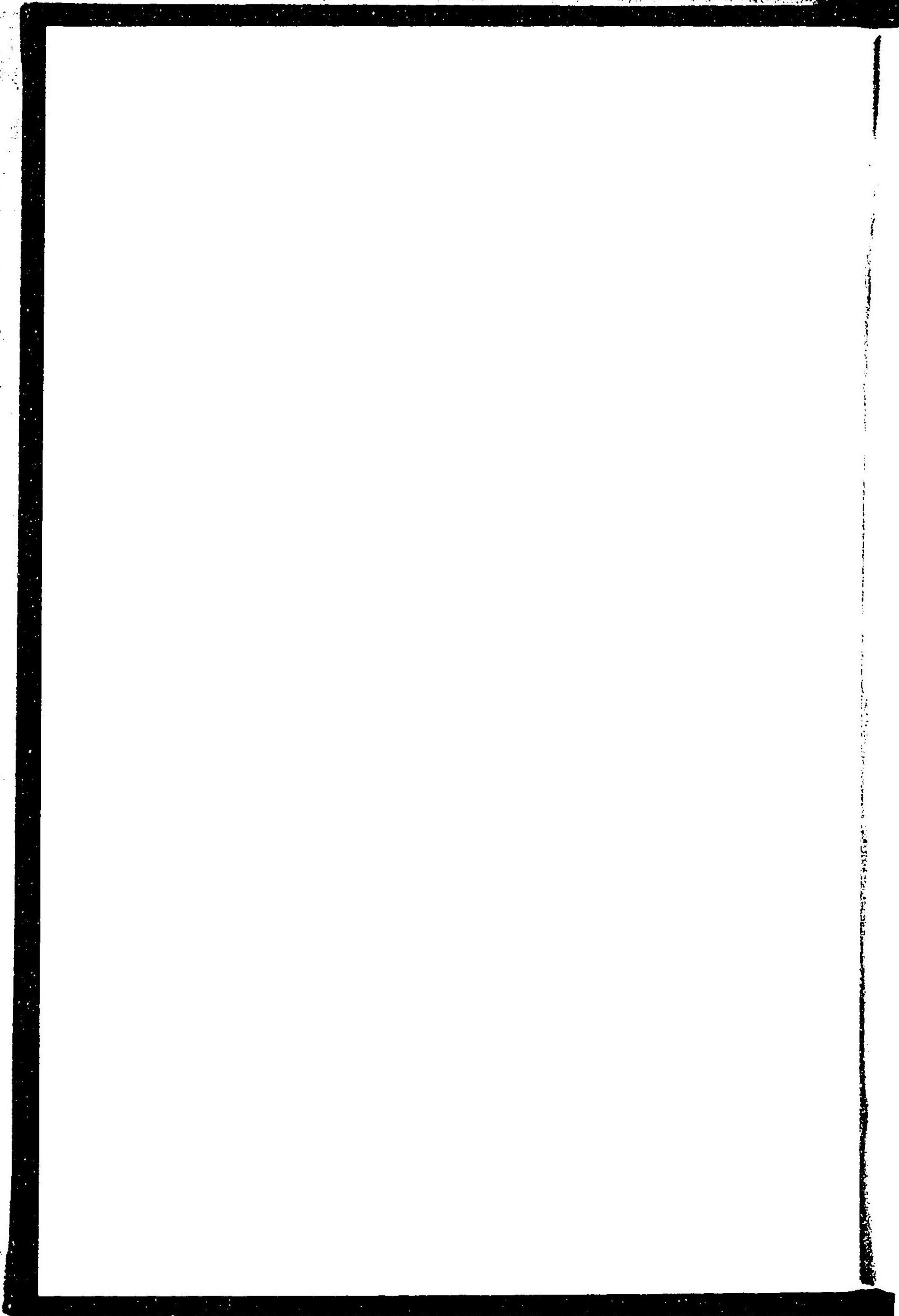
京橋區元歌寄屋町四丁目二番地
杉原活版所

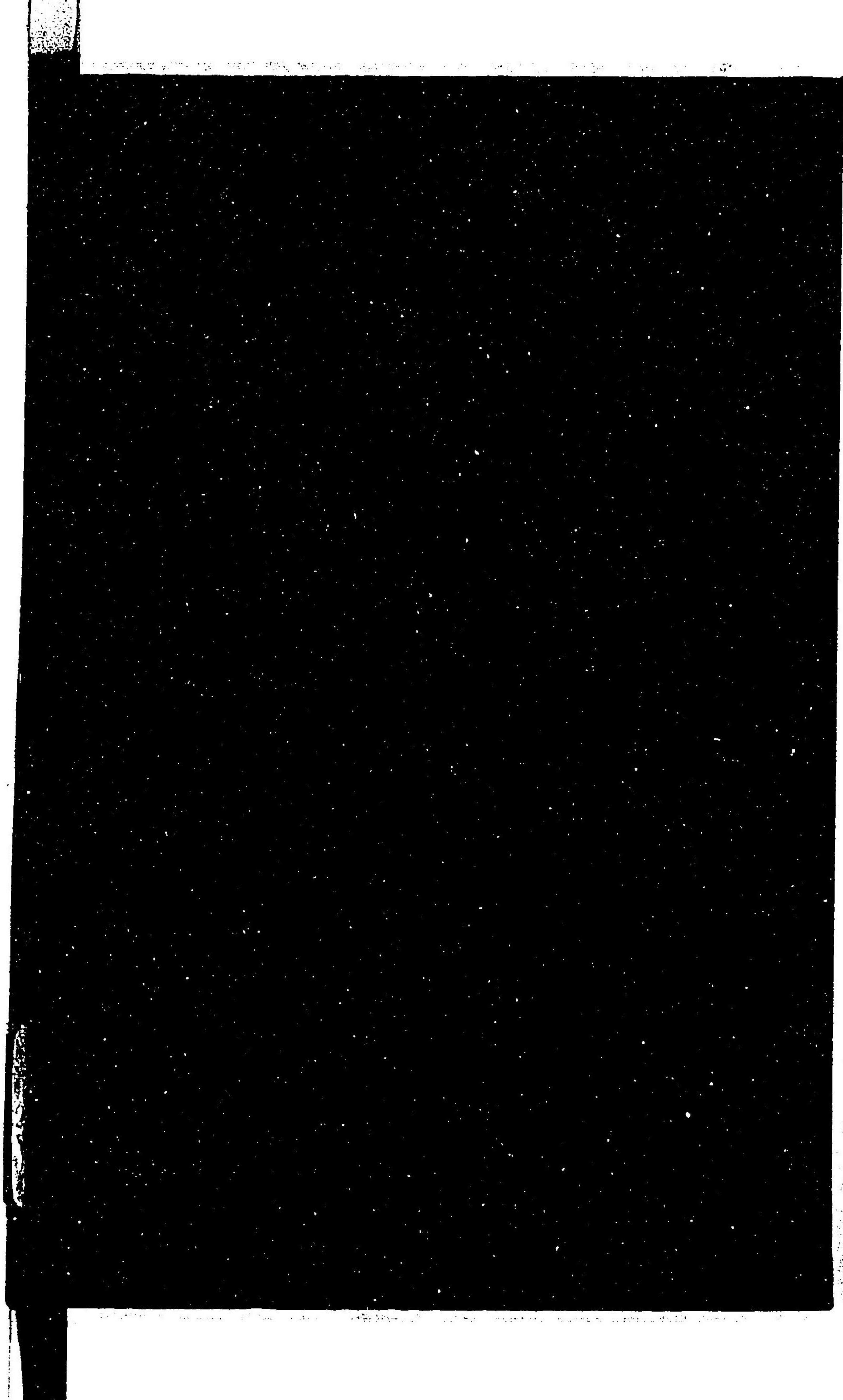
版權所有

219-59

司	司	司	司	司	司	司	司	司	司	
關中官山	關中官山	關中官山	關中官山	關中官山	關中官山	關中官山	關中官山	關中官山	關中官山	
中田清兵衛	守川吉兵衛	大橋甚吾	真田善次郎	本間金之助	成見清兵衛	西澤喜太郎	永琴堂為吉	左勤齋店	宮本甚兵衛	野崎九兵衛

關州	關州	關州	關州	關州	關州	關州	關州	關州	關州		
關州	關州	關州	關州	關州	關州	關州	關州	關州	關州		
川島九右衛門	小川儀平	澤一次郎	大戸利七	升屋重兵衛	多田屋支店	川又銀藏	安中半兵衛	鶴野書店	土肥與平	澤本駒吉	坂井萬吉





22
127

027285-000-9

22-127

英国風俗鏡

高橋 義雄 / 著

M23

ADJ-0013



